

市民ワークショップ「未来のまつど」
報告書

令和2年3月
松戸市

目次

1. ワークショップの開催概要	1
1-1. ワークショップの目的	1
1-2. ワークショップの手法と当日プログラム	1
2. ワークショップでの意見	5
2-1. 全体の意見のまとめ	5
2-2. 全体の意見（詳細）	18
3. 参考資料	51
3-1. 募集案内	51
3-2. 当日に使用した資料	56
3-3. アンケート結果	64

1. ワークショップの開催概要

1-1. ワークショップの目的

本市では現在、令和3年度の開始を予定している次期総合計画の策定作業を進めているところである。策定にあたっては、市民の意見を広く募り、十分に活用することが重要である。本ワークショップは、無作為抽出による幅広い年代の市民の参加により、本市の将来像や、その実現のための取り組みに関する意見を集めることを目的としている。また、参加者が市民としてできることを考えることで、市民がまちづくりに参加するきっかけを作り、協働のまちづくりが広がることを期待して、実施したものである。

1-2. ワークショップの手法と当日プログラム

(1) ワークショップ参加者の募集・決定方法

住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上の市民3,000人に対し、募集案内を郵送した。参加者は150人前後を想定しており、参加申込があった155人全員に参加案内を郵送した。参加回については、参加者の年代、性別、希望日程により調整した。

また、託児サービスの提供や、参加申込書に特別な補助等の必要性を記載する欄を設けるなど、普段市政とあまり関わりのない市民にも幅広く参加いただけるような工夫を施した。

(2) ワークショップの議論テーマ

「近い未来」としての2030年(令和12年)をイメージし、松戸市でどのような暮らしをしていたかについて話し合った。議論テーマについては、一般的な行政分野を大きく「暮らし」(主にソフトに関する分野)と「まち」(主にハードに関する分野)に分類し、開催回によって議論テーマを変更した。

暮らし	健康、医療、福祉、子育て支援、学校教育、生涯学習、文化活動
まち	防災、防犯、交通安全、消防救急、環境保全、産業、雇用、都市空間、道路、公共交通

また、全ての回において、「ハーベストタイム」という時間を設け、理想の将来像のために市民とすることができることを話し合った。理想を言うだけで終わるのではなく、ワークショップに参加したことによる「収穫」(＝ハーベスト)を参加者に持ち帰ってもらうことで、ワークショップ後にまちづくりへの具体的な取り組みを始めてもらうことを狙った。

(3) 各回ワークショップの開催概要

ワークショップは全5回(定員は各回約30人×5回＝約150人)に分けて開催した。幅広い年代や属性の市民が参加しやすいように、平日夜に2回、休日昼に3回開催した。平日夜は、仕事後でも参加しやすいように2時間とし、テーマを1つに絞った。また、開催場所も複数の会場を使用した。

	日時	場所	議論 テーマ	参加 予定者数	実際の 参加者数
第1回	令和元年8月21日(水) 19:00~21:00(2時間)	市役所 議会棟 特別委員会室	くらし	29	27
第2回	令和元年8月24日(土) 13:30~16:30(3時間)	市民会館 301会議室	くらし まち	45	37
第3回	令和元年9月29日(日) 13:30~16:30(3時間)	松戸フューチャー センター	くらし まち	31	27
第4回	令和元年10月9日(水) 19:00~21:00(2時間)	市役所 議会棟 特別委員会室	まち	33	23
第5回	令和元年11月10日(日) 13:30~16:30(3時間)	市役所 議会棟 特別委員会室	くらし まち	30	18
合計				168	132

※1 参加者の都合により、参加予定者数より実際の参加者数の方が少ない。

※2 第2回については、無作為抽出による市民の他に、本市「こどもモニター」の中学生13人も参加した。

※3 第5回については、当初10月12日(土)を予定していたが、台風の影響により開催日のみを11月10日(日)に変更して実施した。

(4) 当日プログラム

まず全員でオリエンテーションを行い、次に、グループごとに分かれて話し合った。最後に、話し合った結果を発表し、意見交換を行った。以下に、第2回のプログラム(休日昼、3時間)を例として示す。平日夜の回は、テーマを1つのみにして時間を短縮した。

●第2回のプログラム

時間（目安）	内 容
13:00～	<p>■ 受付時間 13:00～13:30</p> <p>※受付時間内に必ずお越してください。プログラム進行の都合上、大幅に時間を超過した際はご入場いただけない場合がございます。</p>
13:30～ 13:45	<p>① 開会・オリエンテーション【15分】</p> <p>✓ ワークショップの目的、趣旨、進め方などを説明します。</p>
13:45～ 14:40	<p>② セッション1（テーマ1）【55分】</p> <p>✓ グループに分かれ、簡単に自己紹介をします。</p> <p>✓ 次に、2030年（10年後）の「私」と「松戸市」を思い浮かべながら、「2030年の市民の暮らし」について付箋紙に意見を書き出し、模造紙に貼り出します。</p>
14:40～ 14:50	<p>■休憩</p>
14:50～ 15:45	<p>③ セッション2（テーマ2）【55分】</p> <p>✓ 次に、セッション1と同じく2030年（10年後）の「私」と「松戸市」を思い浮かべながら、「2030年の松戸のまち」について付箋紙に意見を書き出し、模造紙に貼り出します。</p> <p>✓ グループ内で自由に意見を交換します。</p>
15:45～ 16:00	<p>④ ハーベストタイム【15分】</p> <p>✓ ワークショップの収穫として、松戸の未来に向けて「みんなで力を合わせてできること」や「私が明日からできること」についてグループ内で話し合います。</p>
16:00～ 16:20	<p>⑤ 各グループの発表【20分】</p> <p>✓ 各グループのファシリテーターが、話し合った事柄を1グループ3分で発表します。</p> <p>✓ その後、全体で意見交換をします。</p>
16:20～ 16:30	<p>⑥ まとめ・閉会【10分】</p> <p>✓ 閉会后、謝礼をお渡しします。</p>

(5) グループワークの進め方

市民からの積極的な意見を引き出すため、各回約30人の参加者を、1グループおおむね6人として、あらかじめ5つのグループに分けた。各グループにファシリテーターが1人ずつ参加し、グループワークの進行のサポートを行った。なお、グループ分けについては、ライフステージの近い参加者同士の方が共通点が多く、意見が出やすくなることや、グループごとに比較することにより、年代別の意見の

相違を分かりやすくする狙いから、年代ごとにグループを分けた。

ディスカッションについては、付箋に意見を書き出し、模造紙に貼りながら意見を整理・分類する方法により行った。

- ① 意見を付箋に書き出す
- ② 意見を発表しながら、付箋を貼る
- ③ 貼り出した付箋を見ながら、参加者で話し合う
- ④ 付箋をグループ化し、見出しを付ける
- ⑤ ペンを使って説明などを書きこむ

各グループからの意見内容の発表については、参加者には議論に集中してもらうことを優先したため、ファシリテーターが議論をまとめ発表を行った。



2. ワークショップでの意見

2-1. 全体の意見のまとめ

【意見の分類方法】

ワークショップでの意見の量、分布を鑑みて一般的なカテゴリーで分類した。多分野にまたがる意見が多かったため、ある程度大きな単位で分類した。

【年代（グループ）による分類】

年代の近い参加者ごとにグループを分けたため、意見の傾向は以下の年代（目安）により分類した。

- ・中学生（本市「こどもモニター」として第2回のみに参加）
- ・10～20代
- ・20～30代
- ・40～50代
- ・50～60代
- ・60代以上

(1) 子育て、保育

意見の概要	・母子ともに病気の際にも安心して、必要な時にサービスが受けられることが望まれている。出産から子どもが大きくなるまで一貫して柔軟にサービスが受けられることが重要である。 ・一方で、サービスの充実のためには、保育士の待遇改善、利便性の向上による保育の質の向上と量の確保も欠かせないとの理解もあった。
年代ごとの傾向	20～30代、40～50代：子育て世代である同世代からの意見が多かった。
注目すべき議論のポイント	・現在小さい子どもを持つ市民からは、いつでも安心して支援が受けられる「時間の柔軟性」に関する意見が多かったが、それ以外の市民からはサービスの質向上に関する意見が多かった。
キーワード	柔軟なサービス、保育士の待遇改善

(2) 子育て施設、公園

意見の概要	・子どもだけでなく、多世代が交流できる居場所、コミュニケーションが取れる場所があれば気軽に相談でき、子どもの成長にもつながる。塾、小児科、オフィス、食堂など、多機能の施設を一か所に集め利便性を高める。また、小さくてもよいが身近にのびのびと遊べる公園があると良い。 ・子どもがのびのびと遊ぶことができる場所が少ないことや、他の世代と交流する機会が少ないことが問題として挙げられたため、市民ができることとして、ボランティアとして子どもに勉強を教えるなど、子どもとの交流への参加に関する意見が多く出た。
年代ごとの傾向	40～50代：働きながら子どもの居場所が確保できるような方策、子どもが遊べる公園についての意見が多かった。
注目すべき議論のポイント	・ボール遊びなどが禁止され、子どもがのびのびと遊べない公園が増えているという意見に対しては、共感の声が多かった。自由に遊べていた自分の子どもの頃のように、今の子どもたちにものびのびと

ント	遊んでほしいという実感がこもった議論が多くあった。
キーワード	交流、多世代、相談の場、多機能、のびのびと、自然、公園

(3) 教育（内容面）

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・英語・多文化教育、テクノロジー教育を軸に教育水準を高めると同時に、生徒の主体性を伸ばし、いじめがなく多様性を受け入れる教育が求められている。 ・上記のような新しく、独自性のある取り組みを求める市民がいる一方で、市内全体の確実な学力水準の向上を優先する市民もいた。 ・教育内容に関しては、学校や行政が担うべきという考えが多く、具体的な市民ができることに関する意見は少なかったが、教員の労働環境の向上の必要性など、学校の現状を理解する声もあった。他方、中学生グループからは、いじめをなくすために話し合いをするなど、生徒として教育内容の向上に資する行動の提案があった。
年代ごとの傾向	<p>10～20代、20～30代：多文化・テクノロジー教育、いじめをなくすなど、教育を受ける立場としての教育内容に重点が置かれた。</p> <p>40～50代：全体的な教育水準向上とともに、学費の負担軽減など親目線の意見が多かった。</p>
キーワード	英語、国際教育、テクノロジー、いじめのない

(4) 教育（連携面、施設面）

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教師だけでなく、シルバー人材、地域の人材が教育に参加し、地域に開かれた学校を目指す。また、学校以外にも勉強や集える場所があり、協力したい市民も多い。 ・施設面に関しては、学校施設、トイレ、図書館などの老朽化が進んでいるため、バリアフリーや防災の視点からも改築が必要。また、タブレットなどICT化により授業の質向上も求められている。
年代ごとの傾向	<p>中学生：タブレット化など生徒目線の切実な要望が多い。</p> <p>10～20代、20～30代、40～50代、50～60代：多様な人材が協力して子どもの教育に関わることや、施設の老朽化に対する改築の要望が多い。</p> <p>60代以上：経験を活かし、自らが教育の支援をしたいという意見が多い。</p>
注目すべき議論のポイント	<p>・学校、地域、親それぞれの教育への参加度合いについて、理想とするバランスに意見のばらつきがあった。実際にPTAに参加している年代の市民からは、PTA活動などが親の負担になっており、もっと民間のサービスや祖父母の関わりがあると良いとの声もあがった。子育てが終わった60代以上からは、もっと子どもたちの教育に対して協力したいという声が多かった。教師の視点からは、業務量が多いため地域にもっと協力してほしいとの意見があった。教育に関して、子どもの有無や年齢、自身がどのように関わっているかによって、理想の姿や市民ができることに関する意見が影響を受けていると考えられる。</p>
キーワード	地域の人材、シルバー世代、開かれた学校、タブレット、ICT、施設更新・充実

(5) 生涯学習、図書館

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学生や社会人でも勉強ができるスペースを備えた図書館があればよいという意見が多い。また、単に本を借りるだけではなく、情報共有や交流の拠点としての期待も大きい。
-------	---

	・学習の場の充実とともに、ニーズに合った講座の提供や教える側の人材確保も重要なことから、特に60代を中心に自分の知識や経験を教えることで貢献できるのではないかという議論になった。
年代ごとの傾向	20～30代、40～50代、50～60代：働く世代として、社会人が勉強できる場所やサークルを求める声が非常に多かった。リカレント教育が注目される中で、このような声は今後も増えると考えられる。 60代以上：生活に密着した講座の開催や退職後の興味としての学習に関する意見が多かった。
注目すべき議論のポイント	・図書館の施設更新や充実が必要という意見がある一方、土地や財源が限られているため、新規に建物を建てるのは難しいのではないかという議論があった。他自治体の施設の共同利用や、市内の他の空き施設の有効活用などのアイデアも出された。施設面（ハード）の充実を重視する市民と、利便性やサービス（ソフト面）の充実を重視する市民に分かれた。
キーワード	学習の場、情報共有、施設更新・充実

(6) 文化

意見の概要	・松戸の歴史や文化は豊富にあるが、あまり認識・活用されていない。伝統的な文化を守りつつも、新しい文化の創造、発信も求められている。
年代ごとの傾向	10～20代：伝統は維持しつつ、新しい文化・アートを盛り上げ発信していく 60代以上：松戸特有の歴史・文化・伝統をもっと活かす
注目すべき議論のポイント	・古い町並みを守りたい意見があった一方で、車いすやベビーカーでも通りやすい道を作るために、古い町並みを壊さなければならぬかもしれないという心配もあり、どちらを優先すべきか決めるのは難しいという議論があった。
キーワード	歴史、伝統、新しい文化、アート、情報発信

(7) 観光・プロモーション

意見の概要	・歴史的・文化的資源や、名物となる食べ物が多く、観光の資源は揃っているが、目玉がないことやアピールが上手くできていないことにより、観光に活かしきれていない面がある。若者や外国人を主なターゲットにして、近隣から人を集めるために、今ある資源の活用・再利用、イベント開催などを進めていく。
年代ごとの傾向	中学生、20～30代：若者や外国人をターゲットに、新しい文化や技術を活用した具体的なアイデアが多く出された。 40～50代：歴史的資源や食べ物などを、市外へアピールすることや情報発信強化に関する意見が多かった。
注目すべき議論のポイント	・松戸を誇りに思う人が多く、松戸への想いがあふれた最も活気ある議論となった。市民だからこそ知っている松戸の良さを、まずはSNSなどを使って積極的に外へ発信していきたいという声が多く、市民ができることの実践を始めやすいテーマであった。
キーワード	若者、外国人、歴史、食べもの、イベント、アピール、情報発信

(8) 情報発信・共有

意見の概要	・広報があまり読まれていないことや、市民にとって分かりにくいことが課題として挙げられた。SNSなども活用しながら、ターゲットを明確にした情報発信が必要である。
-------	---

	<ul style="list-style-type: none"> 一方、市民としても、情報を待っているだけではなく、自ら情報にアクセスすることが重要であるという議論があった。まずは松戸のことをよく知り、市民も SNS などで情報を発信することから始めたいとの声が多かった。
年代ごとの傾向	<p>20～30代：SNS やホームページ、メールマガジン、QR コードの技術を活用し情報が行きわたるようにするとよいという意見が多かった。</p> <p>40～50代：広報まつどの改善など行政からの情報発信とともに、市民も情報を取得し発信していく重要性が強調された。</p>
キーワード	広報、ターゲット、SNS、情報発信、情報取得

(9) 福祉・介護

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化が進み、福祉や介護が重要なテーマとなることは全世代で共通した認識であった。高齢者が外に出て交流し活躍できる社会が理想との声があった。また、情報が一括して受け取れて気軽に相談できる窓口への要望や、介護する側の負担軽減や待遇向上の必要性も挙げられた。
年代ごとの傾向	<p>10～20代、20～30代：AI やロボット、施設への送迎など、多様なニーズに柔軟に対応できるサービスの質向上への意見が多かった。</p> <p>40～50代、50～60代：施設の充実とともに、相談窓口の強化や情報が取得・共有しやすい仕組みに関する意見が多かった。</p>
注目すべき議論のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 在宅でのサービスの充実（介護ロボットや AI の活用、ニーズに応じたサービスの改善）を重視する意見と、施設のサービス充実（ハード面の整備や、アクセスの向上）を重視する意見に大きく分かれた。
キーワード	AI、ロボット、アクセス向上、情報提供、相談窓口

(10) 医療・健康づくり

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> 施設としての病院は充実しているが、アクセスの向上が課題となっており、訪問や巡回の強化が求められている。 病気の予防が重要であるという考えから、まずは市民一人ひとりが、健康づくりや運動を習慣化することが第一歩であるとの意見が多かった。すでに取り組んでいる人も多いが、始めるきっかけとなり、継続できるような気軽に運動できる場所や施設の充実も必要である。
年代ごとの傾向	<p>10～20代：現役世代に対する医療サービスの向上、健康や病院に関する情報共有の仕組み改善に関する意見が多かった。</p> <p>40～50代：医療サービスがいつでも安心して受けられるよう、サービスとともにアクセスの向上に関する意見が多かった。</p> <p>50～60代、60代以上：緊急の医療サービスとともに、普段は個々人が健康維持をできる取組に関する意見が多かった。</p>
キーワード	アクセス向上、訪問、巡回、運動習慣、健康維持、運動の場

(11) 交流・生きがい

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> 趣味を通じた人との交流とともに、仕事やボランティアで地域に貢献することが高齢者の生きがいに
-------	---

	つながる。また、気軽に集い交流する場所や仕組みが求められている一方、地域貢献や趣味を始めるときのハードルが高い場合があり、参加しやすい仕組みづくりが重要となる。
年代ごとの傾向	40～50代：高齢者も含め、介護する側など多様な世代が交流できる場所に関する意見が多かった。 50～60代、60代以上：趣味や特技を通じて地域に貢献することで生きがい生まれるため、地域活動に参加しやすい仕組みづくりに関する意見が多かった。
注目すべき議論のポイント	・最初は高齢者の集う場所に関する話から始まったが、高齢者だけでなく介護する側や現役世代など多様な世代が交流できる場所が必要ではないか、というように議論が広がっていった。
キーワード	交流、居場所、地域貢献、特技、参画、生きがい

(12) 防災

意見の概要	・江戸川の氾濫や風水害に対する意見が多かった。災害時に高齢者も含め誰もが避難しやすい仕組みや情報伝達が重要である。避難所の整備、電線の地中化、防災マップの周知、普段からの近隣との付き合い、避難訓練などハード・ソフト両面の対策が重要である。
年代ごとの傾向	10～20代：災害弱者でも対応できるようなテクノロジーの活用や個人でできる災害への備えなどに関する意見が多かった。 40～50代、50～60代：防災マップや避難所の整備、避難訓練など行政と市民が協力して備えることに関する意見が多かった。
注目すべき議論のポイント	・ワークショップの直前に全国で自然災害が多発していたことから、喫緊の課題として多くの意見が出たテーマであった。災害の種類の多様化や想定外の災害が多発していることにより、自助や共助の重要性についての議論が多かった。このような点から、防災グッズを各家庭で備えるとともに、地域の防災訓練に参加することが必要との声が上がった。
キーワード	防災情報共有、避難所、江戸川氾濫、風水害、防災訓練、防災マップ

(13) 防犯

意見の概要	・特に子どもが安心して暮らせるまちを目指したいという意見が多く、防犯カメラの設置が最重要である。また、地域でのパトロールを強化することで安全を高めることができるとの意見もあった。 ・まちの魅力や情報発信の議論とともに話されることが多く、安全性が高まることによって、まちのイメージアップにつながり、引っ越してくる人が増えるのではという声もあった。
年代ごとの傾向	20～30代、40～50代：子どもの安全を守るために、防犯カメラの設置やGPSの活用に関する意見が多かった。
キーワード	子どもの安全、防犯カメラ、地域のパトロール、イメージアップ

(14) 公共交通

意見の概要	・コミュニティバスの改善に関する意見が圧倒的に多い。運行時間、本数、ルートの改善により、市内での交通利便性の向上、車が無くても暮らせるまちが望まれている。また、自動運転、乗り合いタクシー、スマートフォンなど最新技術の活用も期待されている。一方、電車に関する改善要求は多くなかった。
-------	--

年代ごとの傾向	20～30代、40～50代：市外（都内）への通勤を前提とした公共交通のあり方に関する意見が多かった。 60代以上：市内での移動のためにコミュニティバスの改善を望む声が多かった。また最新技術の活用を期待する意見もあった。
注目すべき議論のポイント	・住んでいる地域により、公共交通の利便性への評価は違っており、現状や理想のイメージが参加者同士で共有しづらい場面も見られた。駅周辺に住み、都心へ行くことが多い市民はある程度公共交通への評価が高かったが、駅から遠く主に市内での行動が多い市民は、バスへの不満がより高かった。
キーワード	コミュニティバス、利便性向上、乗り合いタクシー

(15) 道路・交通安全

意見の概要	・交通安全を第一に考え、自転車専用レーン、高齢者・子どもでも歩きやすいバリアフリー化、ガードレール設置、道路拡張など安全な道路環境を望む声が多かった。また、渋滞の解消や高齢者の免許返納に関する意見も上がった。
年代ごとの傾向	40～50代、50～60代：自転車や歩行者の視点に立った交通安全を求める意見が多かった。
注目すべき議論のポイント	・普段よく使う交通手段により、重要視する点（車の渋滞対策重視、歩道の歩きやすさ・安全性重視、自転車レーン整備重視等）が異なっていた。特に普段車を運転しない市民は、車を運転する際の不便さがイメージできない場面もあり、よりよい対話のためには視点の共有化が重要だと考えられる。
キーワード	安全、自転車レーン、道路拡張、バリアフリー、高齢者、子ども連れ、車いす、免許返納

(16) 空き家・公共施設・駅前・景観

意見の概要	・暗い印象がある駅前を整備し、バリアフリー化することで賑わいが生まれ、人が集まることが期待されている。空き家や大型団地のリノベーションにより、まちの活性化や、コンパクトシティ、景観の統一、スマートシティなどに関する意見もあった。
年代ごとの傾向	10～20代、20～30代：駅前を中心とした地区の景観を向上することにより、イメージアップを図りたいという意見が多かった。 40～50代、50～60代：公共施設の改修、団地のリノベーション、有効な土地利用に関する意見が多かった。
注目すべき議論のポイント	・駅前の再開発によって、利便性や市のイメージアップ向上を優先する意見と、駅から離れた空き家や団地の有効活用を優先する意見に大きく分かれる議論が多かった。
キーワード	駅前の整備、イメージアップ、空き家・団地リノベーション、活性化

(17) ごみ・生活環境・自然

意見の概要	・ごみの分別が簡単になるとよいという意見は、日々の生活から共感する市民が多かった。まちなかにごみが落ちていない状況が望まれている。また、自然が多い松戸の環境を守りたい意見もあった。 ・市民ができることとしては、始めやすいことが多いテーマであるため、ごみの分別、ごみ拾い、ごみの減量など具体的な行動が挙げられた。
年代ごとの傾向	20～30代：松戸の豊かな自然環境を守ることにに関する意見が多かった。

傾向	
注目すべき議論のポイント	・ごみの分別ルールを簡単にするべきという意見と、市民ができることとして現状のルールでごみの分別をしっかりと行うべきという意見に分かれる議論があった。
キーワード	ごみの分別、ごみの落ちていないまち、ごみ拾い、ごみ減量

(18) 地球温暖化対策

意見の概要	・再生可能エネルギーの利用を促し、様々な物をシェアし、大切に使うことで大量消費をやめる。電力を使わずに工夫することで夏の暑さを乗り切る。
年代ごとの傾向	中学生、10～20代：この2つの世代からしか地球温暖化対策の意見は出なかった。
注目すべき議論のポイント	・このテーマが中心となった中学生グループでは、将来、豊かな自然の残る松戸市に住んでいたいという身近な願いから始まり、学校で学んだ地球温暖化の議論につながった。その後、夏を涼しく乗り切るために打ち水をした経験が共有され、身近にできることのアイディアが多く挙がった。
キーワード	シェア、再生可能エネルギー、大量消費

(19) 産業・商業・仕事

意見の概要	・駅の近くに商業施設などを作ることで、家族で楽しめる賑わいを創出することが望まれており、ゆくゆくは人口の増加にもつながることが期待されている。 ・都内に通勤しなくても最新技術を使い職住近接ができる環境をつくることや、仕事を探している人へのマッチングの向上、働きやすい環境づくりも重要である。
年代ごとの傾向	20～30代、40～50代：技術を活用した新たな産業により雇用を創出したり、賑わいを創出することについての意見が多かった。 50～60代：家族が市内で楽しめ、賑わいが生まれる場所の創出に関する意見が多かった。
注目すべき議論のポイント	・伊勢丹の閉店は精神的にもショックだった市民が多く、その分新たな商業施設への期待が高かったが、一方で病院や保育園、オフィスとの複合施設や、学校の誘致、飲食店の活性化など新たな方法での賑わい創出についても議論が交わされた。
キーワード	商業施設、職住近接、産業創出、仕事のマッチング、税収増

(20) コミュニティ、交流、協働、市民参加、多文化共生

意見の概要	・外国人住民が増える中、交流を増やすことで暮らしやすいコミュニティを目指す。多様な人が近隣で交流することにより、地域が活発になる。当事者の外国人市民が参加したグループでは、当事者からの視点（外国人が気軽に相談・交流ができず孤立しがちである）が共有され、多様な視点からの議論につながった。 ・まずは地域の行事に参加したいという意欲が高い人が多かったが、行政の支援もあればよいという意見があった。町会の担い手が限られる中、若い人も含め多様な人が参加することが望ましい。得意なことを生かして地域貢献するには、情報共有やマッチングの仕組みも重要である。
年代ごとの傾向	10～20代：イベント開催など、外国人との交流を促進することに関する意見が多かった。

傾向	20～30代、40～50代：自治会や町会の活動を通じて、地域の交流を図ることについての意見が多かった。 50～60代、60代以上：自らの経験を生かして地域の活性化に貢献したいという意見が多かった。
注目すべき議論のポイント	・近所との交流など、気軽に始めやすい活動が多いことから、市民ができることに関する意見は最も多く出されたテーマだった。 ・町会の役員などで活動している市民の危機感（特に担い手不足への危機感）と、あまり地域の活動に参加していない市民の危機感の差が感じられた。
キーワード	コミュニケーション、交流、外国人、地域貢献、担い手不足、情報共有、マッチング

【市民ができること】

理想の姿の議論の後、ハーベストタイムにおいて「市民ができること」を話し合った。テーマによって市民ができることに偏りがあり、意見が挙がらなかったテーマもあった。意見があったテーマについて以下に示す。

(2) 子育て施設、公園
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 子ども食堂などでボランティアを担い、子どもたちに勉強を教える。(10～20代) ▶ 紙芝居や読み聞かせなどのボランティア。(60代以上) ▶ 子ども達と自然遊び、虫取り、散策をする(10～20代) ▶ いじめ・虐待が無くなるように、地域の大人が声かけをしたりして、しっかり見守る。(50～60代) ▶ マンションの環境美化を通じて子どもの見守り、声かけをする。(60代以上)
(3) 教育（内容面）
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 外国人向けのスポットができれば、市の小中高生の生徒がガイドをする。(中学生) ▶ 不登校をなくすため、学校全体の行事を自分たちで考えて、学校生活を楽しめる機会をつくる。(中学生) ▶ 授業や校内活動として、いじめについて話す機会をつくる。(中学生)
(4) 教育（連携面、施設面）
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 小学校の外国人児童をサポートしたい。(60代以上) ▶ 低学力児童へのサポートをしたい。(60代以上) ▶ 子どもたちに自分の経験を伝えていきたい。(60代以上) ▶ キャリアを活かして中高校生に理科数学を教えている。(60代以上) ▶ 教員の負担軽減のため、市民として協力できることを考える。(10～20代)
(5) 生涯学習、図書館
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 市民にとって図書館が利用しやすくなるように、図書館にリクエストをする。(50～60代) ▶ 歴史講座のコーディネーターをしたい。(60代以上) ▶ 高齢者にスマートフォンの使い方を教えている。(60代以上)
(6) 文化
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 松戸にある歴史を感じることができる公園に行き、その良さを知る。(中学生)
(7) 観光・プロモーション
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「市外の人からは、自分も松戸市民の一人として見られていること」を意識した行動を心掛け、松戸のイメージ

<p>向上に寄与したい。(10～20代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 海外の人との交流の第1歩として、国際交流協会に登録する。(10～20代) ➤ 松戸のよいところを SNS に投稿する。(10～20代) ➤ 松戸市の魅力を知る。(10～20代) ➤ 白玉工場に行ってみる。(10～20代) ➤ 子どもと一緒に白玉料理！(10～20代) ➤ 子どもと松戸の良さを探す。(10～20代) ➤ 外国語の翻訳機など、コミュニケーションツールを利用してみる。(20～30代) ➤ グルメイベントなど、インパクトのあるイベントを開催しアピールをする。(20～30代) ➤ 桜まつりなどに一緒に参加することにより、街の良さを実感し伝えていく。(40～50代) ➤ 市の魅力をアピールしていくこと。(40～50代) ➤ 私たちがフリーペーパーを発行して松戸市の魅力を発信する。(50～60代) ➤ SNS で発信して若者を呼び込み、松戸でお金を消費してもらえようにする。(50～60代) ➤ 松戸の名所・話題の地、その他の魅力を伝えたい。(60代以上) ➤ 海外の方々とコミュニケーションをとるため、学校で中国語や英語の無料講座を開設する。(中学生) ➤ 松戸のいいところを SNS で拡散する。(中学生) ➤ 例えば古民家でのこども食堂やワークショップ、海外アーティスト誘致など、市外からも人が集まるイベントを安全に配慮しながら開催したい。(10～20代) ➤ 松戸ラーメン祭りを開催して飲食店からまちを盛り上げる。(50～60代)
<p>(8) 情報発信・共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 生活に役立つ情報を友人に伝えたり、SNS で発信するなどする。(10～20代) ➤ 松戸のよいところやイベントなど、情報共有をする。(20～30代) ➤ まず、まちのことを知り、情報を発信していく。(20～30代) ➤ ハード面は整っているため、SNS などでもちの良さを発信していく。(20～30代) ➤ 情報を受信するように心がけ、情報発信をしていくこと。(40～50代) ➤ 市から提供される情報を進んで得るようにする。(40～50代) ➤ 松戸の成り立ちを知ることから始めたい。(60代以上) ➤ 学校で松戸について新聞を作り、松戸を知ってもらう。(中学生) ➤ 自分から松戸の公園やプールを使用して、よく知る。(中学生) ➤ 地元についての知識を増やす。(中学生)
<p>(9) 福祉・介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 補助金を利用して、介護ロボットを導入する。(10～20代) ➤ 移動が困難な高齢者・障害者が買物できるように、ボランティアで車を出す。(40～50代) ➤ 高齢者施策や市の施設の利用方法などについてもっと知る。(40～50代) ➤ 福祉の担い手を増やすため、授業で介護について話す機会をつくったり、興味を持ってもらう活動をする。(中学生)
<p>(10) 医療・健康づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 健康診断を積極的に受診し、自らの身体の状態を把握する。(10～20代)

<ul style="list-style-type: none"> ➤ スポーツなど、健康に関わるサークル活動に参加する。(10～20代) ➤ 早いうちから、親と介護のあり方について話し合う。(10～20代) ➤ 日常の食事や運動に気を付けて、健康を維持する。(10～20代) ➤ まずは、健康であり続ける。(50～60代) ➤ 歳をとっても働く。地域貢献活動をする。(50～60代) ➤ 体育館に行き、体を動かし、健康を維持する。(50～60代) ➤ 健康寿命を延ばすために、健康体操をする。(50～60代) ➤ いつまでも元気に働く。趣味を持つ。(60代以上) ➤ 犬の散歩でもよいので、とにかく体を動かして運動する。(60代以上) ➤ 薬をやめて、元気に暮らす！(60代以上)
<p>(11) 交流・生きがい</p>
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域に参画して地域貢献活動に携われれば、それがお小遣い程度になる仕組みがあればよい。(50～60代) ➤ 都内では地域の高齢者が毎日集まってラジオ体操を行っている地域がある。松戸市内でも、そのように地域の人が気軽に集まって、知り合いができるような場所がもっと増えているとよい。(40～50代)
<p>(12) 防災</p>
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 自宅近くの避難所の場所を確認する。(20～30代) ➤ 防災パトカーなどの防災・防犯活動に参加すること。(50～60代) ➤ 近所での防災訓練に参加する。(50～60代) ➤ 市の広報で防災情報を知らせてもらう。(60代以上) ➤ 江戸川が氾濫した時にどんな風に流水するのか、ハザードマップを作りたい。(60代以上) ➤ 災害時の詳しい避難方法を知っておく。(中学生) ➤ 各家庭に浄水機を置き、雨水を再利用する。いつでもどこでも安心・安全な水。(10～20代) ➤ 停電時に利用できる情報端末を配布する。情報収集ができるよう各自が情報端末を持つ。(10～20代)
<p>(13) 防犯</p>
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 家の玄関に人感センサーライトをつける。(中学生) ➤ 防犯カメラを増やす。(10～20代)
<p>(14) 公共交通</p>
<ul style="list-style-type: none"> ➤ コミュニティバスを積極的に利用する。(20～30代)
<p>(15) 道路・交通安全</p>
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市民が改修の必要な案内表示等を見つけたら、スマートフォンやデジタルカメラで写真を撮って市役所に教える。(中学生)
<p>(17) ごみ・生活環境・自然</p>
<ul style="list-style-type: none"> ➤ ゴみの削減のために、エコバッグを使う。(10～20代) ➤ ごみ拾いをする。(10～20代) ➤ 簡単なおみの分別をする。(10～20代) ➤ 外のごみ拾いを定期的に行う(10～20代) ➤ ゴミ捨て場に行く時にゴミを拾う。(40～50代) ➤ ゴみの分別を各自がしっかりやる。(40～50代)

<ul style="list-style-type: none"> ➤ 町会の廃品回収への協力。(40～50代) ➤ 生活道路の美化のため、日頃からごみを拾ってキレイにする。(60代以上) ➤ 量り売りやデポジット、マイバッグの普及。(60代以上) ➤ ゴミ拾いから始める。桜の植樹や花壇づくり。六間川では40年の実績がある。(60代以上) ➤ マイバッグ・保冷袋を持ち歩いている。(60代以上) ➤ 花を植える。(中学生) ➤ 見つけたゴミは拾ってゴミ箱に捨てる。(中学生)
<p>(18) 地球温暖化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 夏休み、1週間に1回みんなで打ち水をする。(中学生) ➤ 打ち水をしたり、冷えピタを首に貼ったりする。(中学生) ➤ 冷房(暖房)の設定温度を高く(低く)する。(中学生) ➤ ペットボトルではなく水筒を使うようにする。(中学生) ➤ 使えるものは最後までボロボロになるまで使う。(中学生) ➤ 物を大切に丁寧に扱う。(中学生) ➤ ボイ捨てをしない。(中学生) ➤ 使えるけど、もういらぬものは誰かにあげるか、ブックオフに売る。(中学生)
<p>(19) 産業・商業・仕事</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 税金を確保する。そのために、例えばふるさと納税をするときも、全て他の市に使ってしまうのではなく、納税の半分は松戸市に入れる。(40～50代) ➤ 「道の駅」の設立に協力したい。(50～60代) ➤ 内需拡大のため、週に1回くらいは市内で飲む。(20～30代)
<p>(20) コミュニティ、交流、協働、市民参加、多文化共生</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ イベントに参加したり、あいさつを心掛けるなど、地域の人と積極的に交流する。(10～20代) ➤ 地域の町内会に参加してみる。(10～20代) ➤ 近所の人にあいさつ(運動会など町会の集いに参加する)。(10～20代) ➤ 外国人と話す機会を増やす。(10～20代) ➤ 住んでいる地区の交流会に参加する。(10～20代) ➤ 近所の人にあいさつをするなど、意識的に交流を増やす。(10～20代) ➤ 近所のネパール料理を提供する店の料理教室に参加し、外国人と交流する。(10～20代) ➤ 外国語の翻訳機など、コミュニケーションツールを利用してみる。(10～20代) ➤ ボランティア活動への参加。(10～20代) ➤ コミュニティとのつながりを増やすために、高齢者や子どもと交流する。(20～30代) ➤ サークルに気軽に参加してみる。(20～30代) ➤ ボランティアにアクセスする。(20～30代) ➤ 今回の市民ワークショップを広める。(20～30代) ➤ まずは松戸市について1人ひとりが知ること。(20～30代) ➤ 自治会、町内会に参加し、近所やコミュニティの人と知り合う。(20～30代) ➤ 空き時間を活用し、できる範囲でボランティアをする。空いた時間でできることと、こういうことに困っている、

といったもの同士のマッチングのような仕組みがあれば尚よい。(20～30代)

- ファミリーサポート提供側の人手が足りていないのであれば、この制度を高齢者にもっと知ってもらい、説明会を設け、ボランティアとして参加してもらおう。(20～30代)
- コミュニティの活性化については、近所の人にあいさつすることから始める。(20～30代)
- 町内会の枠を越えて、祭りや運動会に参加する。(20～30代)
- 地域住民がつながるために、自分が地域のイベントに参加する。(40～50代)
- 自治会費を安くして、自治会に入りやすくする。(40～50代)
- 地域の中で、近隣の人とみんなで仲良くする。(40～50代)
- 町会の活動に、たとえくじ引きや持ち回りで参加することになったとしても、主体的に関わっていくこと。(40～50代)
- 近所の人と挨拶をする。(40～50代)
- 市からの情報を受け身で待つのではなく、主体的に情報収集をするようにする。(40～50代)
- 市が支援をしたり関与したりしている事業など、まずは自分が安心して参加できる活動に参加してみる。(40～50代)
- 町会の活動へ関わっていくこと。(40～50代)
- 特技を活かして、地域のためにお手伝いする。(50～60代)
- 21世紀の森と広場の有効活用に向け、ボランティアとして管理・運営に参加する。(50～60代)
- 21世紀の森と広場の有効活用に向けたお金の遣い方につき、行政と一緒に考える。(50～60代)
- 私たちが学校のボランティアなどに登録して活動に参加する。(50～60代)
- コミュニティづくり。きっかけを市が呼び掛けてくれると、私たち市民も参加しやすい。(50～60代)
- ゴミ捨てなどの地域のルールを外国人へ情報発信する。(50～60代)
- 地域の祭りやイベントに積極的に参加して、まちを盛り上げる。(50～60代)
- 外国人の住人に日本語会話教室などを開いてサポートする。(50～60代)
- ボランティア活動をして、年配の人が経験や知識を若い人へ伝えていく。(50～60代)
- 子どもの保護者同士の付き合いがなくなってきたので、つながりをつくる。(50～60代)
- 趣味の集まりをつくる。(50～60代)
- (全般について) ボランティアとして参加する。そのために参加の仕方などをわかりやすくしてもらえると参加しやすい。(50～60代)
- 自分でできることを地域に還元。「地域の安全衛生指導者」「農業ボランティア」「手芸教室」「外国人支援」「他世代交流」「休日唐揚げおにぎりの会」などのボランティア。(60代以上)
- 2030年には、どこかでインストラクターをやっている。(60代以上)
- これまでの経験や趣味を活かして、人に教えたり手助けしたり (プログラミング教室、カメラ・写真、服作り・リフォームなど)。(60代以上)
- 引き続き、町会役員としてまちづくりに参加する。(60代以上)
- 若い人やリタイア世代に町会加入を呼びかける。(60代以上)
- 町会に興味を持ってもらう。あるいは、自分が役員になる。出来る範囲で協力する。(60代以上)
- お祭りなどの地域イベントを企画し、実行する。(60代以上)
- 小学校の外国人児童をサポートしたい。(60代以上)

- 顔を合わせることから始めたい。(60代以上)
- 空き家を活用して、カフェなど人が集まる場を。(60代以上)
- 市民センターなどでボランティアを。(60代以上)
- 会釈やあいさつで近所の人との距離を縮めることから始める。(中学生)
- お年寄りなどと積極的にコミュニケーションをとる。(中学生)
- 電車や駅のホームなどで外国人が困っていたら声をかける。(中学生)
- 近所のお年寄りの方々と仲良くなる→世代を超えたコミュニケーション。(中学生)

2-2. 全体の意見（詳細）

ワークショップで出された意見の詳細を分野ごとに分類した。「未来のまちの方向性」には、施策を行うことにより達成したい理想の姿や目指すべき方向性など、抽象的な意見を記載した。「達成する手段」には、理想の姿を達成するための具体的なアイデアや取り組みを記載した。

(1) 子育て、保育

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 産後のお母さんへのケアが、他市のようにもっと手厚くなっていくと良いのではないかと。(40～50代) ➤ 出産後の一ヶ月前後はとても忙しいが、その後の時期にも、定期的な産後支援が受けられる状態になっているとよい。(40～50代) ➤ 定員数、時間など病児保育がもっと充実しているとよい。(20～30代) ➤ 子供の医療費は、高校生まで助成があるのが望ましい。(40～50代) ➤ こども発達センターの待ち期間が3か月もあったが、このような福祉施設のサービスが拡充され、待ち期間が解消していることが望ましい。(40～50代) ➤ 現在は中学生までの医療費助成が高校生まで拡充されているとよい。(40～50代) ➤ 0歳から6歳まで継続した保育が行われるように、乳幼児保育が充実しているとよい。(40～50代) ➤ 子育てしやすいまちとして、待機児童ゼロだけではなく、保育時間を延ばしたり、保育園とスーパーの導線を作るなどして、住みやすくしていくとよい。(50～60代) ➤ 保育所、学童保育を確保することが必要である。(50～60代) ➤ 地域全体で子どもたちを育成していけるように地域が充実するとよい。(50～60代) ➤ 保育士はとても意義ある仕事をしているが、待遇が良くないと聞く。保育士を、お金が稼げる職業にしなければならない。(60代以上) ➤ 30～40歳の世代をフォローするため、子どもの教育や防犯対策と、高齢者の見守りに関し、つなげて考えて合わせて対策を講じると良い。例えば、老人ホームと保育園の交流など。(20～30代) 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 女性が子どもを産んでも切れ目なく働き続けるための支援を充実させてほしい(24時間ベビーシッターサービスの充実、小児科夜間救急サービスの継続、24時間保育園の開設など)。(20～30代) ➤ 保育園と病児保育施設をセットで開設すれば、病児保育の充実が進むのではないかと。(20～30代) ➤ 子どもが病気になったとき相談できる24時間のコールセンターがあるとよい。(20～30代) ➤ 夜間の保育園を増やす(10～20代) ➤ 保育所の送迎バスを充実させる(行き帰りの送迎はおまかせ)(10～20代) ➤ 駅直結で保育所あるいは保育所ステーション等を作る。(50～60代)



未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 現在人手不足の保育士や介護士などを、憧れの職業にすることで、志望する人が増えるのではないか。(20～30代) ➤ 保育園は充実してきているが、保育に携わる人も更に充実していくことが望ましい。(40～50代) ➤ 秋山地区では子どもが増え、教育環境が変化している。児童の増加などの変化に対応できる施設整備が望ましい。(50～60代) 	

(2) 子育て施設、公園

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 親や母親だけで子育てをするのではなく、祖父母世代(高齢者)がもっと子育てに関わってほしい。(20～30代) ➤ 目的が無くとも誰でも気軽に集えて遊べる場所があれば、交流ができる。(20～30代) ➤ 子育て親子が集える場や高齢者が集える場の充実とともに、青少年の居場所も充実するとよい。(50～60代) ➤ 新松戸にある市民交流会館「すまいる」のような施設が増え、放課後児童の遊び場(屋外・屋内)が増えるといい。(40～50代) ➤ 幼児・小児・学童、それぞれの年代に応じた遊びブースがあれば、幼い子どもを持つ親には魅力的ではないか。(50～60代) ➤ 公園だけでなく、子どもが集まってコミュニケーションが取れる場所。(中学生) ➤ 子ども食堂を含め、10代の居場所が充実するとよい。幼児だけでなく、ある程度大きくなった子どもたちが暮らしやすいまちであってほしい。(10～20代) ➤ 子育てに関わる悩みを相談できる場が充実してほしい。(10～20代) ➤ 子ども食堂など、勉強をオープンに教え合う場の充実が求められる。(10～20代) ➤ 子どもが気軽に相談できる人や相談場所があると望ましい。(20～30代) ➤ 子供同士でのコミュニケーションが取りやすいまち 	<p>【市民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 子ども食堂などでボランティアを担い、子どもたちに勉強を教える。(10～20代) ➤ 紙芝居や読み聞かせなどのボランティア。(60代以上) ➤ 子ども達と自然遊び、虫取り、散策をする。(10～20代) ➤ いじめ・虐待が無くなるように、地域の大人が声かけをしたりして、しっかり見守る。(50～60代) ➤ マンションの環境美化通じて子どもの見守り、声かけをする。(60代以上) ➤ 松戸駅周辺にすべり台を設置する。(10～20代) ➤ 学校の空き教室に、企業を誘致し、塾や小児科を併設するとよい(高齢者の雇用も同時に創出できる)。(20～30代) ➤ 老人ホームと幼稚園が合体するなど、お年寄りと子供たちが関わりあえる環境があることが望ましい。(40～50代) ➤ シェアオフィスと保育所、商業施設等の複合化により、利便性が高まる。(20～30代) ➤ 子ども食堂を運営するボランティア団体等に補助金が給付されるなど、活動が広まっているといい。(40～50代) ➤ 子どもが安全に遊べる公園がもっと充実するとよい。

未来のまちの方向性	達成する手段
<p>になっているとよい。(40～50代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 子供たちが自然の中で安心して遊ぶことができるのがよい。(40～50代) ➤ 子どもたちが自由に遊べる川、泳ぐことができる川(10～20代) ➤ 秘密基地が作れるような森がある、秘密基地づくりにちょうどよい広場(10～20代) ➤ 子供でも行きやすい屋外プールなど、普段から活用できる施設があるとよい。(40～50代) ➤ 子供が水遊びができるような場所がとても少ない。簡単な施設で、子供にとって非日常的で楽しく気軽に行ける場所が増えているとよい。(40～50代) ➤ 子育て広場は3歳までの場所があるため、4歳以降の子どもが遊べる施設が増えるとよい。(20～30代) ➤ 現状では公園の遊具がとても少ないので、子供たちが遊んで楽しい遊具が充実している公園が増えているとよい。(40～50代) ➤ 自転車に乗れる場所や公園が少ないので、子供たちがのびのび遊べるためにも、そういった場所が増えているとよい。(40～50代) ➤ 小学生以上の子どもが外で遊べる公園と室内の遊び場が欲しい。(40～50代) ➤ ボール遊びができる公園が増えていることが望ましい。(40～50代) ➤ 図書館に勉強できる場所があり、児童館に放課後安心して遊べるスペースがあればよい。昔はどこでも子供だけで遊ぶことができたが、今はそのような場所がほとんどない。安心して外で遊べる場所があればよい。(40～50代) ➤ 児童虐待の対策が充実するとよい。(50～60代) 	<p>また、市内のプラネタリウムをより魅力的にするなど、親子ともに理科の楽しさを学べる場が増えるとよい。(10～20代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 21世紀の森は、大人のための公園というコンセプトであるが、利用者が少なく、遊具もないため、子供もいない状態である。思い切った見直しを進め、大人も子供も楽しめる公園になっているとよい。(40～50代) ➤ 子どものランドセルにGPSを搭載することを義務化するとよいのでは。(20～30代) ➤ 子どもが学校や放課後教室に入退室したときの記録が、自動的にメールなどで親に知らせる仕組みができれば安心である。(20～30代)

(3) 教育（内容面）

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 家庭でも英語が話される環境が広がっているとよい。(10～20代) ➤ コミュニケーション能力向上も含めたグローバル教育が進んでいる。(10～20代) 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市の交換留学制度、ホームステイ、Skypeによる国際交流などが行われ、国際教育につながる。(10～20代) ➤ 外国人向けのスポットができれば、市の小中高生の生徒がガイドをする。(中学生)

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 国際教育を進めるためにも、教員の労働環境の向上が重要である。(10～20代) ➤ 英語教育は話せることに特化する。(中学生) ➤ 基本的な英語はある程度知っておく。(中学生) ➤ プログラミング実践教育や、ネイティブの英語講師による授業など、教育の質を向上させてほしい。(20～30代) ➤ テクノロジーや情報が進化することが予想されるが、それらとの「付き合い方」や「使い方」まで教えられることが望ましい。(20～30代) ➤ 自分たちでカリキュラムを考え実行する、子ども主体の学校 (10～20代) ➤ 高校・大学の学費が無償になる。(40～50代) ➤ 市民が市内の大学に安い学費で通えるようにして欲しい。(40～50代) ➤ 特殊能力や技能を研くことができるよう、子供の教育にもっと力を入れる。つくばのような都市を見習って、大学がもっと充実されているとよい。(40～50代) ➤ 中学生の職場体験学習が必須化されていることが望ましい。(40～50代) ➤ 公立小中学校の教育水準が高まっていることが望ましい。(40～50代) ➤ 外国語教育 (ALT など) や多文化教育が充実するとよい。(50～60代) ➤ 市立松戸高校がもっと魅力的になるとよい (スポーツ、音楽、演劇などの売りがあるとよい)。(50～60代) ➤ 高校の部活動を強化してほしい。強い部活動があれば生徒の誇りや松戸市のブランドにもつながる。(20～30代) ➤ 高校や大学へ進学するときに市外に出て行ってしまう→市内の学校の底上げが必要。(60代以上) ➤ いじめや LGBT の子どもへの差別などを生まない教育が必要だ。不登校の子どもたちを対象とした教育施設があるとよいのではないか。(10～20代) ➤ 障害のある子どもたちとほかの子どもたちが交流できる機会が充実するとよい。(10～20代) 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 不登校をなくすため、学校全体の行事を自分たちで考えて、学校生活を楽しめる機会をつくる。(中学生) ➤ 授業や校内活動として、いじめについて話す機会をつくる。(中学生) ➤ いじめなどで学校に行けない子どものために、授業をオンライン化するとよい。(20～30代) ➤ 松戸に有名な農学部がある大学を誘致する。(中学生)



未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 子どものいじめ・虐待が無くなっているまち。(50～60代) ➤ いじめをなくす。(中学生) 	

(4) 教育（連携面、施設面）

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 職場に子ども連れがいる。(10～20代) ➤ シルバー世代の労働力が学校などの教育方面にも活用されるとよい。(50～60代) ➤ 教員配置の充実や少人数学級など手厚い教育が望ましい。(50～60代) ➤ 学校の PTA 制度が親の負担になっているとの認識から、PTA をなくしてはどうか。実際に PTA がいない学校がいくつかあり、評判が良い。(20～30代) ➤ 子どもも先生も楽しく過ごせる風通しの良い学校！！(50～60代) ➤ 市立高校がもっと地域とのかかわりを持ったりして、地元の子どもたちが目指したくなるような学校になって欲しい。(40～50代) ➤ 千葉大学との連携。(60代以上) ➤ 学校のトイレがきれいになっている。(中学生) ➤ すべての子どもたちが授業でタブレットを利用できるようにする。(中学生) ➤ 授業中に挙手しづらい子どもには、タブレットを活用して質疑応答しやすくする。(中学生) ➤ 特にトイレなど、きれいな校舎が整備されるとよい。避難所としての機能も充実させる必要がある。(20～30代) ➤ 小・中学校や図書館が、現状ではかなり古いので、リフォームや改築が行われ、快適に使用できる状態であるとよい。(40～50代) ➤ 図書館がバリアフリーになり、使いやすく、勉強しやすく行きやすい場所になり、利便性が向上しているとよい。(40～50代) ➤ ICT、教材など、学校施設・設備が充実するとよい。(50～60代) ➤ 小中学校の早期統廃合と建替えが必要である。(20～ 	<p>【市民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 小学校の外国人児童をサポートしたい。(60代以上) ➤ 低学力児童へのサポートをしたい。(60代以上) ➤ 子どもたちに自分の経験を伝えていきたい。(60代以上) ➤ キャリアを活かして中高校生に理科数学を教えている。(60代以上) ➤ 教員の負担軽減のため、市民として協力できることを考える。(10～20代) ➤ 教科担任を教師だけでなく、地元詳しい人を呼んで担当してもらう。(10～20代) ➤ 学校が終わった後、子どもの学力支援や世話などを行う、塾と学童を組み合わせたサービスがあればよいのではないかと。学校だけにすべてを任せるのではなく、学校が終わったあと、子どもをサポートする取り組みがあれば、働く世代も助かる。(20～30代) ➤ 学区の見直しや、スクールバス運行などにより、長時間歩かなくても学校に通えるようになるとうい。(20～30代) ➤ 学校以外の子ども（外国人含む）の学習の場、集いの場があるとよい。(40～50代) ➤ 高齢者の迷子情報をはじめ、地域の情報を校内放送で伝達したり協力を呼びかける。(中学生) ➤ 楽器や実験道具など授業に必要な備品を十分に揃える。(中学生) ➤ VRを使った授業、歴史の舞台（場面）に入ってそこで先生が説明をする。 ➤ 教育の ICT 化により学校に持っていく荷物を減らす（今は4教科で5キロ以上の荷物がある）。(中学生)

未来のまちの方向性	達成する手段
30代)	

(5) 生涯学習、図書館

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 自己学習をする社会人が増えると予想されるため、学習機会の情報発信が充実されるとよい。(20～30代) ➤ 図書館の電子化が進み、遠くでも気軽に利用できるとよい。(20～30代) ➤ 松戸市が都心に近いという利点を活用し、東京都内の図書館を松戸市民が利用できるというような連携を深め、学習環境の向上が進められるとよいのでは。ハコモノである図書館を松戸市が独自に整備しなければならないという発想を捨ててもよいのかもしれない。(40～50代) ➤ 新しい図書館を核とした地域憩いの場が整っているとよい。(40～50代) ➤ 松戸市内には保育園や幼稚園といった施設が異常に多いが、そういった施設だけでなく、例えば八千代市には図書館に託児施設があるが、少しの間だけ子供の面倒を見てくれるような施設が整っていくことが望ましい。八千代市の図書館には、カフェや子供ゾーンの図書室もある。こういった施設が松戸市にもあるとよい。(40～50代) ➤ 生涯学習の場ができ、学びたい人、教えた人、コミュニケーション取りたい人、様々な人が集えるまちになっていることが望ましい。(40～50代) ➤ 金町にあるような図書館が各地区に整備されるとよい。自習スペースや蔵書などの充実した良い図書館は、まちの魅力の一つになる。(50～60代) ➤ まちの中に、気軽に勉強をしたり仕事をしたりする場がないので、そうした場が増えるとよい。(50～60代) ➤ 大型の図書館など、学びの拠点となる施設・機能があってもよい。(50～60代) ➤ 高齢化に備えて、健康や料理など、生活の知恵を教える場が必要。(60代以上) 	<p>【市民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 市民にとって図書館が利用しやすくなるように、図書館にリクエストをする。(50～60代) ➤ 歴史講座のコーディネーターをしたい。(60代以上) ➤ 高齢者にスマートフォンの使い方を教えている。(60代以上) ➤ 図書館の衛生環境がより向上するとよい。また、読書や学習に関する館内イベントの充実や本の借りやすさの向上、郷土史を学べるコーナーの設置も重要ではないか。(10～20代) ➤ 市内の図書館の本の量が少なく、また図書を置かず貸出のみのところが多いため、本の量を増やしたり、魅力的な図書館づくりが重要。(20～30代) ➤ 図書館等に利用しやすい学習室が増えるとよい。(50～60代) ➤ 近くに気軽に自由に勉強できる場所がほしい。学生が利用できるスペースをつくる。(中学生) ➤ 文化活動や生涯学習のために、学校の空き教室を利用してするとよい。(20～30代) ➤ 生涯学習については、平日開催の講座が増えると、社会人のコミュニティができて嬉しい。(20～30代) ➤ 社会人でも勉強できる学習室があるとよい。(20～30代) ➤ 最新のDVDを図書館に置いて欲しい。(40～50代) ➤ 図書館の閲覧室は夏は暑過ぎて利用できるような場所ではない。市民本位の施設の整備をして欲しい。(50～60代) ➤ 図書館に勉強できるスペースがほしい。(中学生) ➤ 移動図書館などで、身体が不自由な人をはじめ様々な人が色々な本などの情報を共有できるようにする。(中学生)

(6) 文化

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市民アートが活発なまち（子ども・大人が参加して駅前を市民アートで彩る）、プロフェッショナルが集うアートのまち（プロの芸術家が駅前で活動する）⇒市民とプロが活動して、「アートのまち、松戸」の誕生。（10～20代） ➤ 今ある資源（自然・文化）を残しつつ、伝統的な松戸を守りつつ、新しい文化が芽生えたまち。（10～20代） ➤ 松戸市博物館が充実しているとよい。（40～50代） ➤ 文化施設等が有効活用されるとよい。（50～60代） ➤ 文化がないと、若者が出て行く。（60代以上） ➤ 博物館がおもしろいのが、あまり知られていない。（60代以上） ➤ 街道、神社仏閣、遺跡などの歴史がある。（60代以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 駅前に文化の拠点をつくる。（60代以上） ➤ 松戸にある歴史を感じることができる公園に行き、その良さを知る。（中学生） 

(7) 観光・プロモーション

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 松戸市に住む人、松戸市を訪れる人が「松戸のテーマ」を言える。松戸市の色が出てくる。（同じ色を求めてくる人が住んでくれるまち）（10～20代） ➤ イベントへ積極的に参加し、SNSなどを活用してイベントの情報発信をしていくことが重要。（10～20代） ➤ こういったアイデアを気軽に実行したり多くの人がイベントを開催できるような多目的施設があると良い。（20～30代） ➤ 流山市は市のアピールが上手だが、松戸市ももっとアピールしていき、市の魅力を伝えていく必要があるのではないかな。すぐやる課など松戸市をアピールできるものはある。（40～50代） ➤ 松戸市にある古い街並みが再開発でなくなってしまうように、歴史的街並みを保存し、観光にも活用していくのがよいのではないかな。（40～50代） ➤ 梨以外のもので「松戸といえばコレ！」と言える産業が立ち上がっているとよい。（40～50代） ➤ 他の市区町村から「ぜひ松戸を見習いたい」と言ってもらえる知恵と工夫と協力がなされたまちになっているとよい。（40～50代） 	<p>【市民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「市外の人からは、自分も松戸市民の一人として見られていること」を意識した行動を心掛け、松戸のイメージ向上に寄与したい。（10～20代） ➤ 海外の人との交流の第1歩として、国際交流協会に登録する。（10～20代） ➤ 松戸のよいところをSNSに投稿する。（10～20代） ➤ 松戸市の魅力を知る。（10～20代） ➤ 白玉工場に行ってみる。（10～20代） ➤ 子どもと一緒に白玉料理！（10～20代） ➤ 子どもと松戸の良さを探す。（10～20代） ➤ 外国語の翻訳機など、コミュニケーションツールを利用してみる。（20～30代） ➤ グルメイベントなど、インパクトのあるイベントを開催しアピールをする。（20～30代） ➤ 桜まつりなどに一緒に参加することにより、街の良さを実感し伝えていく。（40～50代） ➤ 市の魅力をアピールしていくこと。（40～50代） ➤ 私たちがフリーペーパーを発行して松戸市の魅力を発信する。（50～60代）

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 友だちを呼びたくなるまち。(20～30代) ➤ 近隣から人を集める。(20～30代) ➤ 利便性が良いからという理由で松戸市に住んでいる人にとっても、松戸市の魅力が伝わり、更に外部へも松戸市に関する情報発信が進んでいるとよい。(40～50代) ➤ 集客イベントの開催に活用すれば、人が集まる。(50～60代) ➤ 現在のアートやアニメをもっと市民に親しめるようにして、若者が集まるまちにする。(50～60代) ➤ インスタ映えなど流行に適した名所づくりで人を呼び込むとよい。(50～60代) ➤ 矢切の渡し、七草マラソンなどが松戸の目玉となるようなものになるとよい。(50～60代) ➤ 条件がいいが、活かしきれていない。(60代以上) ➤ 松戸のブランドづくり。(60代以上) ➤ 若い人が外から遊びに来るように。(60代以上) ➤ 「テラスモール」の活性化。(60代以上) ➤ 「道の駅」をつくりたい。(60代以上) ➤ 人が集まる「フードコート」。(60代以上) ➤ いろいろなコース設定ができる。(60代以上) ➤ 松戸市のことをもっと知ってもらおう。(中学生) ➤ コリア・チャイナタウンのように多国籍のまちにして、様々な文化がある松戸市にする。(中学生) 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ また、SNS で発信して若者を呼び込み、松戸でお金を消費してもらえるようにする。(50～60代) ➤ 矢切の渡しでアニメを作って、「聖地巡り」で松戸に来てもらえるようにする。(50～60代) ➤ 松戸の名所・話題の地、その他の魅力を伝えたい。(60代以上) ➤ 海外の方々とコミュニケーションをとるため、学校で中国語や英語の無料講座を開設する。(中学生) ➤ 松戸のいいところを SNS で拡散する。(中学生) ➤ 若者を呼び込むため、映えを狙う。(10～20代) ➤ アートプロジェクト、プロジェクトマッピングをする。(10～20代) ➤ 白玉と梨のコラボレーション。(10～20代) ➤ 例えば古民家でのこども食堂やワークショップ、海外アーティスト誘致など、市外からも人が集まるイベントを安全に配慮しながら開催したい。(10～20代)
	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 団地の利活用を促進したい。外国人が増えているため、団地を民泊のようにして泊まれるようにしてはどうか。(20～30代) ➤ 外国人が空港からすぐ来られるように、空港リムジンバスを増設してはどうか。(20～30代) ➤ 大井競馬場のように、松戸競輪場を若者や女性が気軽に来られるようなおしゃれな場所にしたい。(20～30代) ➤ 松戸ならではの、というインパクトのある施設や催し物を増やしたい。21世紀の森と広場での野外コンサート(松戸フェス)の開催や、松戸の川をつねに流れる観覧車のような乗り物(コミュニティゴンドラ)を作るなど、インパクトのあるものが良い。(20～30代) ➤ 松戸市内で増えているコスプレの撮影を盛り上げ、交流を増やすとまちが元気になる。(20～30代) ➤ 広報や観光マップがスーパーや駅など手に取りやすい場所に置いてあるとよい。(20～30代) ➤ 道の駅やアウトレットの誘致・活用により、東京から一番近い千葉をアピールするなど、人を呼び込む取り

未来のまちの方向性	達成する手段
 	<p>組みが必要である。(40～50代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 松戸市は農地もあるので、農業体験を組み合わせれば魅力がもっと伝わるのではないかな。(40～50代) ➤ 松戸神社の遊歩道の整備や、旧街道を使って古民家カフェを開くなど、歴史を活用して人を呼び込むことも必要ではないかな。(40～50代) ➤ プロスポーツチームを誘致して松戸を盛り上げる。(40～50代) ➤ ラーメンなどの特産品が活用されるとよい。(40～50代) ➤ 松戸市を舞台にした小説を公募し、小説を通して松戸市の魅力を発信し、若者が訪れるまちにする。(50～60代) ➤ 松戸ラーメン祭りを開催して飲食店からまちを盛り上げる。(50～60代) ➤ タピオカブームの次は、松戸の白玉ブームを作る。(中学生) ➤ ストリートピアノがほしい。(中学生) ➤ 外国からの観光客向けに、様々な言語で案内を表示したり、通訳を置く。(中学生) ➤ 松戸で有名な梨を活かして、梨の食べ比べや梨狩りができる所を増やす。(中学生) ➤ 旧水戸街道に和菓子通りを作り外国人を呼び込む。(中学生) ➤ 大きな遊園地やディズニーや USJ にも負けないレジャー施設を作る。(中学生) ➤ いろいろな所にインフォメーションを作る。(中学生) ➤ 松戸駅から各観光スポットへの直通バスを作る。(中学生) ➤ 空き家になった家をお化け屋敷に改造する。(中学生) ➤ 季節感がある通りがほしい。春は桜、夏はひまわり、秋はコスモスなど。(中学生)

(8) 情報発信・共有

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 住む人目線のクリアな情報が開示されるまち（何が正しい情報かわからないと不安になるので正しい情報を 	<p>【市民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 生活に役立つ情報を友人に伝えたり、SNS で発信する

未来のまちの方向性	達成する手段
<p>市民が判別できるまち)。(10～20代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 松戸市の HP が見る人にとってもっと親しみやすいものになり、外国語対応も進んで、情報提供が進んでいくことが望ましい。(40～50代) ➤ 広報まつどの情報は素晴らしいのに、市民にあまり読まれていないことが課題である。広報がもっと見やすくなっているとよい。(40～50代) ➤ 公共サービスの内容が市民にあまり知られていないことが課題である。情報提供が進み、市民も関心を持つようになることが望ましい。(40～50代) ➤ 市報はあまり見られていないのでは。もっと伝わるような情報の伝え方をすればよい。(50～60代) ➤ スマートフォンをもっと有効活用し情報発信すべき。(50～60代) 	<p>などする。(10～20代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 松戸のよいところやイベントなど、情報共有をする。(20～30代) ➤ まず、まちのことを知り、情報を発信していく。(20～30代) ➤ ハード面は整っているため、SNS などでまちの良さを発信していく。(20～30代) ➤ よいまちづくりのために、どこの誰に何を伝えればよいのか分からない人が多いが、市がホームページで意見を受け付けているし、SNS を使っている市議もいるので、いろんな手段で伝えていくことができるのではないか。(40～50代) ➤ 情報を受信するように心がけ、情報発信をしていくこと。(40～50代) ➤ 市からの情報を受け身で待つのではなく、主体的に情報収集をするようにする。(40～50代) ➤ 市から提供される情報を進んで得るようにする。(40～50代) ➤ 松戸の成り立ちを知ることから始めたい。(60代以上) ➤ 学校で松戸について新聞を作り、松戸を知ってもらう。(中学生) ➤ 自分から松戸の公園やプールを使用して、よく知る。(中学生) ➤ 地元についての知識を増やす。(中学生) ➤ テーマ別、分野別ではなく、読んで欲しい年代等ターゲット別に記載したらどうか。(50～60代) ➤ 松戸市独自の SNS があればよい。(50～60代) ➤ 最新のトピック、防災情報などが自動で配信されるサービスがあるとよい。(20～30代) ➤ ホームページ URL や QR コードが、分野ごとにまとまった一覧表があれば、もっと情報にアクセスしやすくなる。(20～30代) ➤ 地域の情報が集まる掲示板(オンラインも含む)について、行政の支援と民間企業の力を借りて活発にできるとよい。(20～30代)

(9) 福祉・介護

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 高齢者に優しいまちであってほしい。介護を含め、一人ひとりの支え合いの重要性に対する認識が広がってほしい。(10～20代) ➤ 介護などに関する悩みを相談できる場が充実してほしい。(10～20代) ➤ 現役世代の経済的な負担軽減をしてほしい。(10～20代) ➤ 在宅介護・老老介護への支援を充実してほしい。(10～20代) ➤ 高齢者が元気に暮らせるまち⇔元気な高齢者がたくさんいるまち。(10～20代) ➤ 介護施設の多様化によって、ニーズに応じた柔軟なサービスが受けられるとともに、在宅も含む終末医療が充実しているとよい。(20～30代) ➤ これら総合的な取組によって安心して年を取ることができ、家にこもらない生活ができるとよい。(20～30代) ➤ 保育施設/介護施設/保健施設と家を結ぶ送迎サービスを充実させるなど、こちらから施設に赴くだけでなく訪問サービスを充実させてほしい。(20～30代) ➤ 高齢者の単身世帯が孤独となり心配であるため、対策が必要となる。(20～30代) ➤ 介護ロボットなどの活用が進むとよい。(20～30代) ➤ 介護について気軽に相談できる場所があるとよい。(20～30代) ➤ 歳をとった後、リタイア後に楽しく過ごせる場所があれば、孤立しない。(20～30代) ➤ 親のためにも、また自分が高齢になった時のためにも、介護サービスを夜遅い時間まで利用できると便利。(40～50代) ➤ 高齢者が在宅で元気に暮らせるまちであるとよい。(40～50代) ➤ 近所付き合いが活発になるとよい。それによって脳が活性化し、認知症予防にもなる。(40～50代) ➤ 2030年には、団塊の世代が80～90歳となり、高齢化が更に進むので、市民相談窓口が更に必要になるので 	<p>【市民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 福祉の担い手を増やすため、授業で介護について話す機会をつくったり、興味を持ってもらう活動をする。(中学生) ➤ 補助金を利用して、介護ロボットを導入する。(10～20代) ➤ 移動が困難な高齢者・障害者が買物できるように、ボランティアで車を出す。(40～50代) ➤ 高齢者施策や市の施設の利用方法などについてもっと知る。(40～50代) ➤ AIを活用し、緊急事態の際には近隣の人々に連絡が行きわたる「ご近所センサー」という仕組みがあってはどうか。(20～30代) ➤ 介護について24時間電話相談できるシステムがあると安心。(20～30代) ➤ 通所型の介護施設が商業施設にあると便利。(20～30代) ➤ 移動が困難な高齢者・障害者が公的支援（バスとか、訪問販売とか）で買物できるようにしてほしい。(40～50代) ➤ 老健施設が整備されるなど、老後も安心して暮らせるまちづくりが進んでいるとよい。市立病院の跡地などの土地を有効活用して老健施設の建設を進めるなどの方法があるのではないかと。(40～50代) ➤ 現在提供されている、タクシー券やおむつ券などの介護補助について、使わないものもあるので、利用者の側に選択肢があることが望ましい。(40～50代)

未来のまちの方向性	達成する手段
<p>はないか。(40～50代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 老人の街にしない。いろんな世代が共存していることが重要である。一人老人の孤独死をなくすことが必要である。シニア世代が活動しやすいように、市民バスが無料化されるとよい。(40～50代) ➤ 高齢者ケアが手厚く、老人が安心して暮らせるまちになっているとよい。(40～50代) ➤ 親の介護が今後必要になる世代だが、高齢になるとどんな状態になり、高齢者をサポートするためにどういうことをすればいいのかが情報が不足している。松戸市は高齢者施策が手厚いようだが、知っている人しか知らない。もっと多くの市民が知っていることが望ましい。(40～50代) ➤ 小金原では空き家が増えている。高齢化が進んでおり、10年後の担い手不足が心配。(50～60代) ➤ 介護が必要になったら、すぐに入所できるように施設の充実。(50～60代) ➤ 介護施設や在宅介護サービスが充実して、年をとっても安心して暮らせるとよい。(50～60代) ➤ 街中が「サービス付き高齢者住宅」のように暮らしやすくなるとよい。(50～60代) ➤ 介護施設の充実と職員の確保が課題である。(50～60代) ➤ 介護する家族の負担が軽減されるとよい。(50～60代) ➤ 医療・福祉・介護に携わる人々の給与水準が低く、離職率が高いのは問題。地位の向上を図る必要がある。(60代以上) ➤ 高齢化は間違いなく進む。他方、人生100年時代と言われるように、長寿化も進むだろう。では、どんな状態で長生きしたい？一人ひとりがそのことに向き合う必要がある。(60代以上) ➤ 個人の意見としては施設に入所したくないので、在宅医療・在宅介護の充実が必要だと考えている。バリアフリーも進める必要がある。(60代以上) ➤ 「斎場」が貧弱。人生の最期をきちんと送れない。(60代以上) ➤ 介護する人と介護される人がもっと楽に暮らせるよう 	

未来のまちの方向性	達成する手段
にする。(中学生)	

(10) 医療・健康づくり

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 医療施設の充実が必要ではないか。また、市内の病院で受診可能な診療科など、詳しい情報が分かるハンドブックがあるとよい。(10～20代) ➤ 健康に関するデータによりアクセスしやすくなる仕組みづくりが求められる。(10～20代) ➤ 運動するきっかけづくりが必要ではないか。誰でも利用できるスポーツ施設など、気軽に運動できる場があるとよい。(10～20代) ➤ システム上の情報共有やオンラインでの予約により、病院の受診から薬の処方までの時間を短縮する。(10～20代) ➤ 現役世代でも緊急度が高い人はすぐに病院で受診できるようにしてほしい。(10～20代) ➤ 移動式の自動運転車で訪問医療ができるとよい。(20～30代) ➤ 子どもの医療費を18歳まで助成して欲しい。(40～50代) ➤ 市立病院が行きづらい所に移転してしまったので、病院は交通の便のよい所にして欲しい。(40～50代) ➤ 新しくできた医療センターは、施設は良いが、近隣に住んでいる人にとって気軽に使えるものではなくなった。遠方から来る人だけでなく、身近な市民にとって利便性が向上してほしい。(40～50代) ➤ 10年後は高齢層の割合が高いと考えられるので、そのような世代が安心して住むことができるまちとなっていることが望ましい。(40～50代) ➤ 健康に関する市の取り組みの情報発信が拡充され、自分から調べなくても情報に触れる機会が多いことが望ましい。(40～50代) ➤ 高齢化社会に向けて、在宅医療が充実しているとよい。(40～50代) ➤ 忙しい人や出歩くことが難しい人のために、巡回の健診・検診が行われているとよい。(40～50代) 	<p>【市民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 健康診断を積極的に受診し、自らの身体の状態を把握する。(10～20代) ➤ スポーツなど、健康に関わるサークル活動に参加する。(10～20代) ➤ 早いうちから、親と介護のあり方について話し合う。(10～20代) ➤ 日常の食事や運動に気を付けて、健康を維持する。(10～20代) ➤ まずは、健康であり続ける。(50～60代) ➤ 身体を動かす習慣作り。(60代以上) ➤ 歳をとっても働く。地域貢献活動をする。(50～60代) ➤ 体育館に行って体を動かし、健康を維持する。(50～60代) ➤ 健康寿命を延ばすために、健康体操をする。(50～60代) ➤ いつまでも元気に働く。趣味を持つ。(60代以上) ➤ 犬の散歩でもよいので、とにかく体を動かして運動する。(60代以上) ➤ 薬をやめて、元気に暮らす！(60代以上) ➤ 健康のために、みんなで楽しみながら体を動かす活動をする。(中学生)

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 救急医療の受け入れ体制がさらに整っているとよい。 (40～50代) ➤ 高齢者にやさしく、心も体も豊かに、健康に暮らしていけるまちになっていることが望ましい。(40～50代) ➤ 今は民間の有料ジムに通っている。市民一人ひとりが筋力の維持に取り組める環境があればよい。(50～60代) ➤ 年金暮らしになっても筋力維持に努めたい。民間ジムの利用に対し、公共から支援があってもよい。(50～60代) ➤ 「健康ポイント」はもっと使いやすくなって活用の輪が広がるのが望ましい。(50～60代) ➤ 健康に過ごせるための知識やスポーツの普及。(50～60代) ➤ 小児科が少なくなっているので、安心して診てもらえる小児科があるとよい。また、高齢者も安心して診てもらえる病院があるとよい。(50～60代) ➤ 医療・介護の連携体制が大切である。病院には長期間入院できなくなっているため、重篤患者のための施設が必要。終末期の人が暮らせる看取りの施設が充実しているとよい。(50～60代) ➤ 介護・医療が必要になったとき、ファーストアクションを起こせるように情報が集約されているところがあるのが望ましい。(50～60代) ➤ 救急車を呼ぶまではいかないが、病院まで運んでくれる車(タクシーみたいな)があるとよい。(50～60代) ➤ 高齢者も参加しやすい運動のすすめ。(60代以上) ➤ グランドゴルフなど、なかなか新参者が入りにくい。 (60代以上) ➤ 高齢者が外に出て行く環境。一休みできるベンチや集まれる場所。(60代以上) ➤ 松戸のウォーキングガイドなど健康づくりのお手伝い。(60代以上) ➤ 今はダブル・ワークで働いており、忙しい毎日を送っている。しかし体力は年々低下するので、働けなくなったらと思うと不安もある。(60代以上) ➤ 薬代はバカにならない。後期高齢者の保険負担も増え 	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div>

未来のまちの方向性	達成する手段
<p>ている。年金だけでは生活していけない。高齢者の貧困問題は、今後も懸念される。就労支援の大切さが増すだろう。(60代以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ どうしても体力は弱ってくる。10年前に大病を患い、そのことを改めて実感した。愛犬の散歩で良いので、とにかく外に出て運動できる機会があればよい。(60代以上) ➤ 個人的には、寝たきりで長生きはしたくない。「健康寿命」という考え方が、益々大切になってくる。(60代以上) ➤ 歳をとっても、気負わず自然体で、自立した生活が送れているのが理想。(60代以上) ➤ 優秀な病院は多い。しかし市立病院は「元気」でないと行けない立地。(60代以上) ➤ 高齢者が外に出やすい環境づくり。(60代以上) ➤ 健康や身体のことを知る機会がほしい。(60代以上) ➤ 同じ病の仲間作り。(60代以上) 	

(11) 交流・生きがい

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ スポーツを含め、高齢者が交流できる場があればよい。(10～20代) ➤ 現役世代向けの健康イベントが多くあると、参加しやすい。(10～20代) ➤ 高齢者が働ける場所が増えているとよい。(20～30代) ➤ 仕事をリタイアした人が活躍できる場が必要ではないか。(10～20代) ➤ 元気に楽しく暮らせるように、大人でも集える場所があるとよい。(40～50代) ➤ 高齢者が集まりやすい場所が増えていることが望ましい。(40～50代) ➤ 人間、働けているうちは大丈夫。問題は退職後。2030年には70歳定年になっているだろうから、その後の居場所づくりが課題となる。(60代以上) ➤ 特技を活かして働けるなど、必要とされる仕組づくりが大切である。特技とニーズをマッチングさせるなど。(60代以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市民センターは、初めての方でも活動の輪に入りやすくなれば利用しやすくなる。コーディネーターを置けばよいのでは。(50～60代) ➤ 地域に参画して地域貢献活動に携われれば、それがお小遣い程度になる仕組みがあればよい。(50～60代) ➤ フードコートに高齢者がたくさん集まっており、居場所になっている。そのようなインフォーマルな場所があればよいし、市としてもフードコートがある事業者に助成をするなどの取り組みを行い、フォーマルな居場所も整備し、高齢者の居場所がたくさんあればよい。(40～50代) ➤ 都内では地域の高齢者が毎日集まってラジオ体操を行っている地域がある。松戸市内でも、そのように地域の人が気軽に集まって、知り合いができるような場所がもっと増えているとよい。(40～50代)

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 働けることが一番いいが、趣味を持つことも大切。趣味を通じて人と人とのつながりも保たれる。(60代以上) ➤ お年寄りが居られる場づくりが望ましい。無料で居られるのがポイント。(50～60代) ➤ 高齢者に限らず、誰でも自由に交流できる場があればよい。(50～60代) ➤ 高齢者が地域のお役に立てる仕組みづくりが求められる。(50～60代) ➤ 自分に自信が持てる何かが見つかれば、いきいきと毎日が過ごせる。(50～60代) ➤ 地域貢献活動をしたいが、ハードルも高い。要資格や規制・会議の多さが課題となる。(50～60代) ➤ 地域参画のためには、参加のハードルを下げる必要がある。そうすれば人財が活用される。(50～60代) ➤ 歳をとっても居場所がある、地域参画できる仕組みがあれば、担い手不足もある程度解消されるのでは。(50～60代) ➤ 安心して過ごせる老後であって欲しい。(50～60代) ➤ リタイア世代であっても社会の役に立ちたいと思っている人が多いので、そのような人たちの雇用が進んでいるとよい。(40～50代) ➤ 世代を超えた付き合いがあり、高齢者からいろいろなことを教えてもらうなど関わる機会が増えているとよい。(40～50代) ➤ 介護する側同士の交流が広がり、コミュニティが拡充するとよい。(40～50代) 	

(12) 防災

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 高齢者も使える防災技術がある。(停電時だとテレビが使えない、情報が来ない。若い人はスマホで情報収集ができるが高齢者は取り残されてしまう)(10～20代) ➤ 防災・災害時のサポート強化⇒全世帯に非常時に使える情報端末を配布する。(10～20代) ➤ 災害時でも安心して避難できる建物がある。(10～20代) 	<p>【市民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 自宅近くの避難所の場所を確認する。(20～30代) ➤ 防災パトカーなどの防災・防犯活動に参加すること。(50～60代) ➤ 近所での防災訓練に参加する。(50～60代) ➤ 市の広報で防災情報を知らせてもらう。(60代以上) ➤ 江戸川が氾濫した時にどんな風に流水するのか、ハザ

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 信頼できる近所の人と立場を超えて繋がることで災害を乗り切る。(10～20代) ➤ 浸水する恐れがある避難所もあるため、対策を考える必要がある。(20～30代) ➤ 災害時の避難情報が分かりやすく伝わる必要がある。(20～30代) ➤ 高台の避難施設の充実と避難路の整備の促進が必要である。(20～30代) ➤ 災害時に高齢者のための避難バスがあるのが望ましい。(20～30代) ➤ 災害時の備蓄品がある森ビルのように、災害時に逃げ込める会社・学校・マンションが松戸市内にも整えられている必要がある。蓄電設備への補助も進むとよい。(40～50代) ➤ 普段から顔を合わせておくコミュニティのつながりが維持されることにより、防災・防犯につながる。市民が参加する地域での防災訓練が実施され継続されることが必要である。(40～50代) ➤ 川が多いので災害が心配だが、市から配布される防災マップの情報や市からの放送が充実され、防災弱者を守ることができるまちであるとよい。(40～50代) ➤ 電柱の地中化が進むことにより、災害対策もできていることが望ましい。(40～50代) ➤ 防災行政無線が聞き取りにくいので、分かりやすく伝達されることが望ましい。(40～50代) ➤ 町内会単位での防災・防犯の取り組みが進み、地域での防災計画が作られているとよい。(40～50代) ➤ 近所での防災訓練が広まり、公園に防災施設や避難所が増設され、避難の手段も確保された災害に強いまちになっているとよい。(40～50代) ➤ 災害時の避難場所などを充実して欲しい。(50～60代) ➤ 災害時には、松戸市の立地(国道バイパス)を生かし、千葉県北西部のハブの役割ができる災害時のリーダー的な存在になれるとよい。(50～60代) ➤ 電柱を埋設化するとよい。(50～60代) ➤ 大きな災害時のシミュレーション(ハザードマップ等)をわかりやすく知ることができるとよい。(50～60代) 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ードマップを作りたい。(60代以上) ➤ 災害時の詳しい避難方法を知っておく。(中学生) ➤ 防災グッズを市民に支給し、災害に備えるとともに、防災への意識啓発にもつなげる。(10～20代) ➤ 各家庭に浄水機を置き、雨水を再利用する。いつでもどこでも安心・安全な水。(10～20代) ➤ 災害時に電気を使えるように、電気自動車を増やす。(10～20代) ➤ 折り畳み式のソーラーパネルを一人一枚配布する。(10～20代) ➤ 停電時に利用できる情報端末を配布する。情報収集ができるよう各自が情報端末を持つ。(10～20代) ➤ 外国人も利用できるような多言語対応の情報端末を用意する。(10～20代) ➤ 高齢者も使えるような操作性が簡単な端末を準備して、災害情報を常に獲得できるようにする。(10～20代) ➤ 避難所としての学校の設備(トイレ、冷暖房)の充実が必要である。(20～30代) ➤ 地域別のハザードマップがスーパーにおいてあれば、避難場所の情報が入手しやすくなる。(20～30代) ➤ 松戸の災害対策が進み、再エネ推進のまちへつながっていくとよいのではないかと。災害時に使う学校の屋上に、太陽光発電の設置が進むとよい。(40～50代) ➤ 災害弱者(高齢者、外国人など)の避難支援をより充実させたり、中高生に対し避難トレーニングを行ったほうが良い。(20～30代) ➤ 防災の意識付けのために、防災情報は半ば強制的にでも配信されるようにするとよいのでは。(20～30代) ➤ 避難所よりも高層マンションのほうが安全。町会を通じて避難協定が結べたら。(60代以上)

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 江戸川の氾濫対策をする必要がある。(50～60代) ➤ 災害時の防災無線が聞き取りにくい、パソコンやスマートフォンが使えないと避難所情報を得にくいなどが課題である。(50～60代) ➤ 避難所に入れない人が出ないように収容人数を確保する必要がある。(50～60代) ➤ ペットの同行避難ができるとよい。その際のペットの食料や受け入れスタッフなども確保されているとよい。(50～60代) ➤ 10年前と比べると、この10年は大きな災害が多かったように感じる。東日本大震災の印象は強烈で、これからも大きな災害への対策が必要である。(60代以上) ➤ 地域が高齢化する中、遠くの避難所まで歩けません、という人も今後は増える。高齢でも無理なく歩いて行ける場所を避難所とする等、地域の実情を踏まえた対策が重要だ。(60代以上) ➤ 先般、館山市で大きな被害を出した台風のように、地震だけでなく風水害対策も重要だ。(60代以上) ➤ 停電しないシステムなど、生活に不可欠な基盤の強化も大切だ。ソフト・ハードからの取組が求められるので、優先順位を付けながら進めていけばよい。(60代以上) ➤ 江戸川の氾濫に備えた避難ビル。(60代以上) ➤ ドクターヘリ対応ができる施設。(60代以上) ➤ 町内会で子どもを守る活動。(60代以上) ➤ 江戸川沿いは低地なので、水没のおそれがある。(60代以上) ➤ お互いが近隣に関心を持てるように。(60代以上) ➤ 絶対安全の建物が一つでもあればいい。(中学生) ➤ 地面に避難ルートをすぐ表示できるような仕組み。(中学生) ➤ 災害が起きた時の避難所の整備。(中学生) ➤ ビルが密集している近くには広場がほしい。火災や地震が起きた時の避難所。(中学生) ➤ 災害時、避難場所のプライバシーを守る取組がほしい(仕切りがある完全個室のような空間)。(中学生) 	

(13) 防犯

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ シルバー人材が活躍し、防犯パトロールを担っているとよい。(10～20代) ➤ 松戸＝治安が悪いというイメージを無くす。(10～20代) ➤ より安心して暮らせる松戸市であってほしい(犯罪率は他の都市より低い、凶悪な事件がニュースになっており、安全・安心を感じづらい)。(10～20代) ➤ 子どもを守ることができるよう、安全なまちでありたい。(20～30代) ➤ 地域が防犯の役割を担うことで、まち全体がセコムで守られているように安全性が高まる。(20～30代) ➤ 防犯対策に力を入れて安全になれば、まちのイメージアップにもつながる。(20～30代) ➤ 市内で防犯カメラが増え、犯罪が減っているので、抑止力になり、安全なまちになってきていると実感できる。安全なまちづくりへの取り組みは、もっと必要である。(40～50代) ➤ 市民防災パトカーが増え、見回りが増えているとよい。(40～50代) ➤ 子供110番の家にどのようになるか分からないなど、情報が伝わっていないことがあるので、市からの情報提供が更に進み、市民としてできることがもっと明らかになっていることが望ましい。(40～50代) ➤ 松戸の怖いイメージがなくなっていることが望ましい。(40～50代) ➤ 子供の安全に関する情報がきちんと共有され、子供の見守り隊が増員され、午後には少なくなってしまう交通誘導員がボランティアではなくきちんと対価が支払われる形で十分に配置されるなど、子供を守る態勢が整っていることが望ましい。(40～50代) ➤ 防犯・まちの美化が進み、移住したくなるまちになっているとよい。(40～50代) ➤ 防犯対策をしっかりとしたまちにして欲しい。(50～60代) ➤ 空き家問題では空き家にしない対策が必要である。(50～60代) 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 松戸市の防犯キャラクター(松宮アヤ、神戸アミ、山城アイ)を活用して防犯意識を高める。(50～60代) ➤ 家の玄関に人感センサーライトをつける。(中学生) ➤ 防犯カメラを増やす。(10～20代) ➤ 街灯を増やして防犯効果を高める。(20～30代) ➤ 子どものランドセルにGPSを搭載することを義務化するとよいのでは。(20～30代) ➤ 子どもが学校や放課後教室に入退室したときの記録が、自動的にメールなどで親に知らせる仕組みができれば安心である。(20～30代) ➤ 夜間の外灯が充実し、防犯カメラが増加することで、市民の安全性が高まっていることが望ましい。(40～50代) ➤ 学校の周りに防犯カメラが増加し、子供が安心して登下校でき、家族も安心できることが望ましい。(40～50代) ➤ 駅の近くや近所に交番が増えて欲しい。(50～60代) ➤ 防犯カメラを設置するとよい。(50～60代) ➤ 犯罪防止のために至る所にカメラを付ける。(中学生)

未来のまちの方向性	達成する手段
➤ 防犯灯があたる部分は明る過ぎるが、無いところは真っ暗。そのあたりが改善するとよい。(50～60代)	

(14) 公共交通

未来のまちの方向性	達成する手段
➤ 空飛ぶ車も含めた自動運転の技術が発達してほしい。(10～20代) ➤ 松戸を周遊できるトラム（路面電車）が走っている。(10～20代) ➤ 都内まで10分、さらに早い公共交通。(10～20代) ➤ 松戸市民の多くは東京へ通勤しているにも関わらず、松戸市内のバスの運行が23時くらいまでしかなく、残業したとき等不便を感じる。もっと遅い時間まで運行してほしい。(20～30代) ➤ 若い世代が暮らしやすい視点で交通の利便性を高めることが望ましい。(20～30代) ➤ シーバス（船）に乗りたい（川の交通を充実させることで利便性が高まる）。(20～30代) ➤ 新京成線が都心直通になると、沿線住民が増えてにぎわいが増えるのではないかと。(20～30代) ➤ バスが遅くまであれば、遅くまで飲んで安心して帰宅できる。(20～30代) ➤ コミュニティバスの本数や時間が充実して、気軽に乗れるとよい。(20～30代) ➤ 電車の路線が増え、都心直通の線ができると、利便性が高くなるとともにまちのイメージアップにもなる。(20～30代) ➤ バスの運行時間がもっと増えると便利になる。(40～50代) ➤ 車を使わなくても公共交通機関のみで気軽に移動したい。(40～50代) ➤ 電車が空いていることや、家賃が比較的安めであるといった利点を活用し、都心から松戸へ勤務したくなるような環境を整えていくことも必要ではないか。(40～50代) ➤ 常磐線だけでなく、新京成線、武蔵野線など、いろんなものがつながる必要がある。(40～50代)	【市民ができること】 ➤ コミュニティバスを積極的に利用する。(20～30代) ➤ 駐輪場がより充実するとよい。バイク置き場ももっと必要ではないか。(10～20代) ➤ コミュニティバスの運行時間の調整などで、利便性を高めてほしい。(10～20代) ➤ 駅での自殺防止も含めた安全対策を強化する。(10～20代) ➤ 無料送迎バス。(10～20代) ➤ 駅構内に巨大なエレベーター（ベビーカーOK、大人数収容）。(10～20代) ➤ 車がなくても生活できるようにバスをはじめとした公共交通の充実や、レンタサイクルの普及が必要である。(20～30代) ➤ 自転車が安全に走行できる専用道路や、駐輪場が必要である。(20～30代) ➤ 市民の足となり、高齢者などの買物弱者が利用できるような、コミュニティバスが充実し、タクシー利用券など、交通利用の選択肢が増えていることが望ましい。(40～50代) ➤ 通院や福祉のため、コミュニティバスの路線や便数が増えているとよい。(40～50代) ➤ コミュニティバスの充実が図れないか。(50～60代) ➤ 高齢者や子育て親子の足として、コミュニティバスが充実するとよい。(50～60代) ➤ 空港から松戸市までの直通バスがあるとよい。(50～60代) ➤ コミュニティバスを増やす。(50～60代) ➤ バスの位置情報がわかる、渋滞マップを作るなどしてバスを便利に利用できるとよい。(50～60代)

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市内のバスの本数が減っていることが課題である。コミュニティバスや公共タクシーなど、公共交通機関が整い、移動しやすいまちになっているとよい。(40～50代) ➤ シニア世代でも気軽に映画を見に行くことができるなど、バスなどの交通の利便性が保たれている状態が望ましい。(40～50代) ➤ 小回りの利く路線を増やすなどしてバスの渋滞が改善されるとよい。(50～60代) ➤ 松戸より市川に出る方が便利なのはどういうことか。(60代以上) ➤ バスが使えない。わかりにくい。(60代以上) ➤ 馬橋は駅前までバスが入れない。(60代以上) ➤ 若い人は、駅に近いところに住む。(60代以上) ➤ 車に乗れなくなっても困らないまちづくり。(60代以上) ➤ 2030年には、AIが相当に浸透し、自動運転が実現しているとみる。自動運転のコミュニティバスも実現可能である。運転手の人件費が削減できる。(60代以上) ➤ 大きな自動運転バス車両をコミュニティバスとして導入するのは、コスト高である。認可の問題もある。数人乗り程度、マイクロバス程度で十分である。(60代以上) ➤ 北総線は高い！今のコミュニティバスは時刻表やルートの問題があって使いにくい。雨の日などは大変不便であり、改善が必要である。(60代以上) ➤ 電車やバスの本数を増やす。(中学生) 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 路線だけでなく、用途・日時等の利便性を考えたコミュニティバスが運行されるとよい。(50～60代) ➤ コミュニティバスの増便。(60代以上) ➤ 新松戸と新八柱の間に新駅をつくる(21世紀の森などへのアクセス改善)。(60代以上) ➤ 自動運転のコミュニティバスを小型の車両として、オンデマンド的に運用できれば面白い。スマホで呼べるようにすれば、時刻表やルートの問題も解決する。(60代以上) ➤ 自動運転のタクシー、乗り合いバスもよい。タクシーも貴重な公共的交通手段である。民間をまず重視し、公共は、コミュニティバスで補完するイメージである。(60代以上) ➤ 高齢者のために小さいバスを住宅街に走らせる。(中学生) ➤ 電車やバスの優先席をわかりやすくする(優先席の絵のステッカーなど)。(中学生) ➤ 車道にレールを作りボタンだけで動いて目的地までいく小型電車のようなものを整備してほしい。(中学生)

(15) 道路・交通安全

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 歩行者・自転車・自動車道路が分かれているまち。(10～20代) ➤ 道路が整備されて交通量が増えても対応できるまち。(10～20代) ➤ 狭い道がなくなり、交通事故が少ないまち。(10～20代) ➤ 階段を減らしバリアフリー化、自分が高齢化しても楽 	<p>【市民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 市民が改修の必要な案内表示等を見つけたら、スマートフォンやデジタルカメラで写真を撮って市役所に教える。(中学生) ➤ 道路の右折レーン改善などにより、交通事故を減らす。

未来のまちの方向性	達成する手段
<p>しく歩けるまち。(10～20代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 松戸市の南北の道は広いが、東西の道は狭くて裏道が多いので、もっと広くしてほしい。(20～30代) ➤ 一方、昔の街並みを保存することとのバランスも考慮する必要がある。(20～30代) ➤ 渋滞緩和、広域につながる道路改善で、利便性が高くなるとよい。(20～30代) ➤ 計画的な道路整備により、渋滞が減少しているとよい。(20～30代) ➤ 渋滞が多い箇所が解消されていることが望ましい。(40～50代) ➤ 歩道の舗装が進み、ガードレールの設置も増えることで、バリアフリー化が更に進み安全なまちになっていることがよい。(40～50代) ➤ 歩道の確保や整備が進み、信号機も適切に設置されることにより、安全なまちになっていることが望ましい。(40～50代) ➤ 小金原地区など、市内には坂が多い地域もある。高齢化が進む中で、交通手段のサポートが必要と感じている。(50～60代) ➤ 左側通行の徹底など、自転車運転のルールを徹底して欲しい。(50～60代) ➤ 踏切事故を減らすための対策が必要である。(50～60代) ➤ 新規道路など道路整備されるとよい。(50～60代) ➤ 道路の凸凹が無くなるとよい。自転車や車いす、ベビーカーなどには危ない。(50～60代) ➤ 大型車両と歩行者が接触してしまいそうな道路があるので、そのような事故が起きないように安全な道路にしていく必要がある。(50～60代) ➤ 自転車の安全対策。(60代以上) ➤ 今の子育て世代の多さや、今後の高齢化を考えると、全ての生活道路への歩道整備が望ましい。しかし、現実的には難しいだろう。歩道が整備できなくとも、歩きやすく安全な道にすることはできると思う。(60代以上) ➤ 道路が細い。(60代以上) 	<p>(10～20代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 初めて松戸市を訪れた人でも道に迷わないよう、松戸市マップのIT化。(10～20代) ➤ 狭い歩道やデコボコな道を改善することにより、車いすでも通りやすい道になるとよい。(20～30代) ➤ 区画整理を実施して、交通安全を強化するとよい。(20～30代) ➤ 川の土手にスロープができて、自転車でも登れるようになるるとよい。(20～30代) ➤ 自転車を使う市民が多く、下り坂でかなりスピードを出す市民もいるので、自転車レーンの設置を進めていく必要がある。(40～50代) ➤ 通学路にガードレールがない場所がまだ多いので、児童・生徒の安全のために設置がもっと進んでいる必要がある。(40～50代) ➤ 自転車が歩道を通ると歩行者が危険であり、車道を通ると交通渋滞の原因になる。自転車が通るための専用のスペースが確保され、自転車を使いやすいまちになっているとよい。(40～50代) ➤ 歩道や車道のコンクリート等が壊れていたり、狭くて危ない道が多いので、安全な道路を整備して欲しい。(50～60代) ➤ 自転車が安全に通行できる道路を整備して欲しい。(50～60代) ➤ 坂川にもっと橋を架けて通行しやすくして欲しい。(50～60代) ➤ 子どもが多いまちにも関わらず、歩道が整備されていないと感じる。今後は高齢化が進むこともあり、車いすでも通りやすく整備するべき。(50～60代) ➤ 狭い道路を一方通行にしたり、自転車の走る場所をわかりやすい表示・目印にするなど安全な道路が望ましい。(50～60代) ➤ 自転車が安全に走れる道路が整備されるとよい。(50～60代) ➤ 古くて読めなくなった案内表示の改修が必要である。(50～60代) ➤ 歩行者と自転車の棲み分け。(60代以上)

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 自転車が走りにくい。バスが来ると怖い。車道の端にゴミがたまっている。(60代以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 東京都のように、高齢者向けのシルバーパスをつくってはどうか。運転免許の返納者にシルバーパスを交付するなどすれば、返納する人が増えるかも知れない。(60代以上) ➤ 歩道の充実を進めてほしい。高齢者もこども連れも安心して歩ける。(60代以上) ➤ 狭いところは拡幅してほしい。競輪場周辺や八ヶ崎桜通から21世紀の森交差点など。(60代以上) ➤ 信号機の整理方法(時差式や歩車分離)を見直して、円滑に。(60代以上) ➤ 自転車専用の道をつくって交通事故を防止する。(中学生) ➤ 歩道を確保し、段差を少なくする。(中学生) ➤ 標識に応じて速度制限できるようにする。(中学生) ➤ 横断歩道や信号機の時間設定を見直す(短過ぎず、長過ぎないように)。(中学生)

(16) 空き家・公共施設・駅前・景観

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 松戸のイメージ向上が重要である。駅前の衛生環境の改善や安全性の向上が求められる。(10～20代) ➤ 住まいとして高齢者住宅。(10～20代) ➤ 松戸ならではの個性あふれる都市景観。例えば、建物の外壁がピンク色など、視覚的に特徴的な松戸の個性があるまち。(10～20代) ➤ 空き家(団地・古民家)や土地・施設を有効活用したり、多機能施設があるとよい。(20～30代) ➤ JR松戸駅にエレベーターができたり、バスがもっと活用されたらよい。(20～30代) ➤ 松戸駅前の少し暗くて汚い印象を、街灯を増やして明るくするなどして、素敵な駅前・まちになるとよい。(20～30代) ➤ 駅前が素敵になれば、デパートができたり大手企業の本社が移転し、税収も増えるのではないか。(20～30代) ➤ 建物が古い。(20～30代) ➤ 空き家や学校の空き教室をもっと活用する。(20～30代) 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 電柱をなくして景観を良くしてはどうか。(20～30代) ➤ 待ち合わせの目印になるようなモニュメントが駅前にあるとよい。(20～30代) ➤ 新しい施設を建てるのは難しいため、現在あるもの(廃校になった校舎、空き家など)を再利用し、リノベーションのまちにするとよい。(20～30代) ➤ 駅から離れた住民と駅近の空き家のマッチングや引っ越しの支援体制が構築されるとよい。(20～30代) ➤ 空き家を安く売るなどして効率良く再利用し、若者を増やす。(40～50代) ➤ 老朽化した学校をアパートや会社の寮にして、住民税を増やす。(40～50代) ➤ 常盤平団地、小金原団地、市営住宅といった団地の再編を進める必要がある。(40～50代) ➤ 道路も街も、現状ではあまりにきたない。この街に住むのかというがっかり感が正直に言うところであった。古い道路の整備や植木の剪定なども含めて、松戸の街並み美化計画をもっと進めることがとても重要である。公

未来のまちの方向性	達成する手段
<p>代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域ごとにコンパクトシティになり、家族で同じバスに乗って仕事や学校に行けるとよい。(20～30代) ➤ 駅前を活性化して欲しい。(40～50代) ➤ 新松戸地区の駅前再開発が進み、駅から遠いテラスモール松戸も周辺道路の渋滞もなく市民に利用されるなど、利便性が向上した街であってほしい。(40～50代) ➤ 企業や大学などとの連携を深め、介護などの分野で協力し、流山をサンプルとしたようなスマートシティとなっているとよい。(40～50代) ➤ 千駄堀新駅が設置されるかどうか、方向性が具体化されていないなければならない。(40～50代) ➤ 市役所移転後に跡地を売却するのであれば、活用方法を先に決めておき、有益な活用方法が決まっていることが必要である。(40～50代) ➤ 一世帯に一台タブレットが配布され、連絡網もインターネット経由で整備されるなど、高齢者も含めてインターネットで人をつなぐスマートシティが実現しているとよい。(40～50代) ➤ 駅近のマンション地区と戸建地区のどちらであっても、街並みや景観が維持されていることが重要である。(40～50代) ➤ 子育て支援やコミュニティの活性化のために空き家をレンタルするなど、空き家対策を進めていく必要がある。(40～50代) ➤ 団地を含めた空き家を活用したり、市営住宅に安く住んでもらうなど、若い人にもっと来てもらおうと、人口の増加につながり、よいのではないか。(40～50代) ➤ 現在は駅前が高齢者にやさしくないので、駅周辺の開発は、老人が安心して暮らせるまちを目指したものであるのが望ましい。(40～50代) ➤ 松戸駅周辺の開発が改善されるとよい。(40～50代) ➤ 住宅需要が増えている一方、整備されていない土地が目につくので、調整区域が緩和され、住宅が建てやすくなっているとよい。(40～50代) ➤ 駅から離れている住宅街の照明が暗いので、街灯が増えるなど、明るくする工夫が進んでいることが望まし 	<p>共施設がかなり老朽化している印象がとても強いので、改修・リストラを進めていく必要がある。(40～50代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 新クリーンセンターが稼働し、和名ヶ谷クリーンセンターのリストラが進んでいる必要がある。(40～50代) ➤ 八ヶ崎などの遊休公有地を放置せず、活用する方法が決まり、活用されていることが望まれる。(40～50代) ➤ 統廃合後の空き校舎などがあれば、有効活用すればよい。(50～60代) ➤ 古い団地の大規模な建て替えをする。(50～60代) ➤ 空き家の有効利用をして、活気あるまちをつくる。それを松戸駅のみではなく、市全域に拡げる。(50～60代) ➤ 非活用不動産の流通促進。(50～60代) ➤ 駅の老朽化により危険な部分がある。階段、エスカレーターを新しくして、利用しやすい駅にして欲しい。(50～60代) ➤ 駅前に十分な自転車置き場が確保されるとよい。(50～60代) ➤ 公共施設をバリアフリー化する(トイレやスロープなど)。(中学生) ➤ 古民家として空き家を活用する。(中学生)

未来のまちの方向性	達成する手段
<p>い。(40～50代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 10年後に向け、公共施設の老朽化対策は松戸市の大きな課題である。(50～60代) ➤ 常盤平の団地の高齢化が進み、荒廃しているので何とかしたい。(50～60代) ➤ 小金原地区に空き家が増えているので、若者に来て欲しい。(50～60代) ➤ 小金城趾駅の階段が危険。バリアフリーで安全な駅にして欲しい。(50～60代) ➤ 常盤平団地を建て替えて若者を呼び込み、再活性化されるとよい。(50～60代) ➤ 歩行者・自転車・自動車が移動しやすくなるように、駅前が整備されるとよい。(50～60代) 	

(17) ごみ・生活環境・自然

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ ごみの分別がより簡便になるとよい。(10～20代) ➤ 燃えるゴミ・燃えないゴミを分別しなくてよいようにしてほしい。(10～20代) ➤ まちなかにゴミが落ちていない状態にする。(10～20代) ➤ 自動ごみ拾いロボットで常にキレイ。(10～20代) ➤ ごみ処理場を地下に作る。(町にごみ箱を設置、直通でごみ処理場移動する。)(10～20代) ➤ ゴミの分別が楽になっていて、ゴミが落ちていないまちがよい。(20～30代) ➤ 梨畑に代表されるような、緑のあるまちのままであってほしい。(20～30代) ➤ 土手の自然保護とともに整備をすることで、川に親しめるようになるのではないか。(20～30代) ➤ 住宅地が多く住みやすい上に、畑が近くにあり、自然とのふれあいが多。(20～30代) ➤ 自然が豊かでゆったりした松戸の良い所を残して、いい意味で変わってないまちでありたい。(20～30代) ➤ 里山や農地の保全と、それによる雇用・産業の創出が望まれる。(20～30代) ➤ ゴミの分別をきちんとして、タバコのポイ捨てをなく 	<p>【市民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ ゴミの削減のために、エコバッグを使う。(10～20代) ➤ ごみ拾いをする。(10～20代) ➤ 簡単なごみの分別をする。(10～20代) ➤ 外のごみ拾いを定期的に行う (10～20代) ➤ ゴミ捨て場に行く時にゴミを拾う。(40～50代) ➤ ゴミの分別を各自がしっかりとやる。(40～50代) ➤ 町会の廃品回収への協力。(40～50代) ➤ 生活道路の美化のため、日頃からごみを拾ってキレイにする。(60代以上) ➤ プラスチックは便利だから、減らすのは困難。再資源化が必要。(60代以上) ➤ 量り売りやデポジット、マイバッグの普及。(60代以上) ➤ ゴみ拾いから始める。桜の植樹や花壇づくり。六間川では40年の実績がある。(60代以上) ➤ マイバッグ・保冷袋を持ち歩いている。(60代以上) ➤ 花を植える。(中学生) ➤ 見つけたゴミは拾ってゴミ箱に捨てる。(中学生)

未来のまちの方向性	達成する手段
<p>して、きれいな町、ものを大切にするまちにする。(40～50代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ ゴミ分別を簡便化する(缶、ペットボトルだけではなく、トレイなども)。(40～50代) ➤ 東京都内などでは、焼却炉の性能が良く、プラスチックゴミも燃やせるごみとして処理されている。松戸市の焼却施設も、しっかりしたものを建て、市民が便利になっていることが望ましい。(40～50代) ➤ 流山市では、ごみ焼却施設の熱を利用した入浴施設がある。松戸市でも、焼却施設の熱を利用した施設ができるなど、環境に配慮しつつ、市民生活も便利になっているとよい。(40～50代) ➤ ダンボールなどの資源ごみの軒下回収の方法が分かりにくいので、市民が方法を理解し、リサイクルが更に推進されて、町会のリサイクル収入も増えるというのでは。(40～50代) ➤ 緑が多いまちであってほしい。宅地化により緑が減少しているので、空き家を活用するのがよい。(50～60代) ➤ タバコの時代はもう終わった。(中学生) 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ゴミ回収スペースを増やしてほしい。(10～20代) ➤ スーパーのごみ袋を有料にし、そのままごみ袋に再利用できるようにする。(10～20代) ➤ 公園にゴミ箱が設置されるとよい。(20～30代) ➤ 歩きタバコやポイ捨てを禁止する(町中にゴミ箱を設置)。(中学生) <div data-bbox="842 577 1453 1032" style="text-align: center;"> </div>

(18) 地球温暖化対策

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 物をシェアするなどして、大量消費の生活をやめる。(10～20代) ➤ 乗り捨てもできるシェア自転車や電気キックボードがある。(10～20代) ➤ カミナリが再利用できるような発電施設を作る。(10～20代) ➤ 電線が無くても電気が通る。(10～20代) ➤ 電化製品を使わなくても涼しくなれるものがほしい。(中学生) ➤ ごみを燃やして走る車がほしい。(中学生) ➤ 道が芝生になってほしい。(中学生) ➤ 再生可能エネルギーの導入に力を入れる(すべての建物にソーラーパネルをつけるなど)。(中学生) ➤ 自然が豊かになっている。(中学生) 	<p>【市民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 夏休み、1週間に1回みんなで打ち水をする。(中学生) ➤ すべての建物にグリーンカーテンを付ける。(中学生) ➤ 通学路に日陰を増やす。(中学生) ➤ 公園にミストが出るものを作ってほしい。(中学生) ➤ 打ち水をしたり、冷えピタを首に貼ったりする。(中学生) ➤ 冷房(暖房)の設定温度を高く(低く)する。(中学生) ➤ ペットボトルではなく水筒を使うようにする。(中学生) ➤ 使えるものは最後までボロボロになるまで使う。(中学生) ➤ 物を大切に丁寧に扱う。(中学生) ➤ ポイ捨てをしない。(中学生)

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 至る所に傘の貸し出しがある暮らし（市の施設に〇日以内に返却すればよい）。（中学生） ➤ メルカリの店のようなお店を作り、地域全体のごみを無くしていく（リサイクル）。（中学生） ➤ 道端にごみ箱（リサイクル用）をたくさん作る。ポイ捨てを無くす。（中学生） 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 使えるけど、もういらぬものは誰かにあげるか、ブックオフに売る。（中学生） ➤ カーシェアに補助金を出す。（10～20代） ➤ 松戸市内の施設にすべてソーラーパネルを設置する（地球温暖化の防止）。（10～20代）

(19) 産業・商業・仕事

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ ランドマークとなるような商業施設をつくり、雇用創出につなげる。（10～20代） ➤ 松戸の立地を活かし、企業や工場誘致や、カフェなどの職場スペースの増加などにより市内で働く場所を増やすことで、電車混雑の緩和につなげる。（10～20代） ➤ アーケード商店街で雨に濡れずに買い物ができる。（10～20代） ➤ 理想の姿になるためには、仕事があることが重要。（20～30代） ➤ 短期間働きたい人など多様な働き方のニーズを満たせるよう、仕事のマッチング方法が改善されるとよい。（20～30代） ➤ AIを活用した産業などを盛んにすることで、市内での働く場所が増えるとよい。（20～30代） ➤ スペースを必要としない産業や事業所が増えるとよい。（20～30代） ➤ 民間の力やアイデアを活用する。（20～30代） ➤ 駅前にショッピングモールがあるとよい。（20～30代） ➤ インターネットでの買い物が多くなるが、場所を訪れて対面でしなければならない用事は必ず残るので、それらが一つの場所で全てが完結する場所があればよい（買い物、塾、習い事、病院、シェアオフィス、保育園、福祉施設が集まっている）。（20～30代） ➤ エリアごとのハローワークがあれば、自宅近くで働きたい人のニーズを満たせる。（20～30代） ➤ 松戸市に映画館がなく人が市外に流出してしまっているので、映画館などの娯楽施設が松戸の中心にあり、 	<p>【市民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 税金を確保する。そのために、例えばふるさと納税をするときも、全て他の市に使ってしまうのではなく、納税の半分は松戸市に入れる。（40～50代） ➤ 「道の駅」の設立に協力したい。（50～60代） ➤ 道の駅は、買いに行くのではなく「売りに行く」。手工艺品、地産地消メニューなど。（50～60代） ➤ カジノを誘致し、財源確保につなげる。（10～20代） ➤ ドローンを活用し、物流の改善を図る。（10～20代） ➤ 市内の公園同士を結ぶコミュニティバスがあれば市内で一日楽しめる。（20～30代） ➤ 市内の有名なラーメン店を結び食べ比べができるラーメンバスを企画してはどうか。（20～30代） ➤ リノベーションなどは補助金を利用する。（20～30代） ➤ 内需拡大のため、週に1回くらいは市内で飲む。（20～30代） ➤ 働く場の提供が進み、人材不足対策も進んでいることが望ましい。例えば、就業希望者向けのらーめん寺子屋、子供向けのしごと寺子屋などの場ができているとよい。（40～50代） ➤ 民間企業とも提携し、シルバー人材の活用が進み、アルバイトなどとして、地元企業や施設での就労が実現しているとよい。仕事とは何かを子供に教えるシルバー人材が活躍しているとよい。（40～50代） ➤ 道の駅やアウトレットの誘致・活用により、東京から

未来のまちの方向性	達成する手段
<p>市内で楽しむことができるのが望ましい。(40～50代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 若い家族連れをはじめ、市民が楽しめる場として充実が図られていればよい。例えば大型アスレチック施設など。市民が楽しめる場であれば、有料化されていてもよい。(50～60代) ➤ 若い家族連れを惹きつける施設(有料可)とは何か。プール、広い公園、レジャーランドなどが考えられる。(50～60代) ➤ 都心で就労している人が多いが、松戸市内で仕事に就くことができるインフラや環境が整い、副業もしやすい街になっているとよい。特にインターネット環境が整い、どこでも学習や仕事ができるようになっていることが望ましい。(40～50代) ➤ ラウンドワンなどの大型娯楽施設が誘致され、市民向けの娯楽施設が整っていることが望ましい。(40～50代) ➤ 若いお母さんが働ける魅力的な職場が松戸市内にたくさんあるとよい。(40～50代) ➤ 納税世代の人口が維持され、増加し、市の税収が確保されている必要がある。(40～50代) ➤ 税率を下げて大企業を誘致するなど、まちづくりのために市の収入を増やす施策が必要ではないか。流山市や柏市との合併も検討し、政令指定都市になって財源を増やしてまちを活性化することも考えられるのではないか。(40～50代) ➤ 松戸駅付近にデパートなどの大型の商業施設があるとよい。(40～50代) ➤ テレワークをする環境整備が進み、松戸に住みながら全国で働くことができる仕組みが整っているとよい。(40～50代) ➤ 道路が整備されて多くの人が松戸を訪れることでショッピングモールができ、まちが活性化するとよい。(50～60代) ➤ 梨から離れ、まちの目玉・方向性となるような特徴を出したい。(50～60代) ➤ 就労支援の大切さは、若い人にもあてはまる。ブラックな仕事ばかりではいけない。若い人、例えばシング 	<p>一番近い千葉をアピールするなど、人を呼び込む取り組みが必要である。(40～50代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 工場が多いという利点を生かして工場見学などを実施し、松戸市を訪れる人を増やす。(50～60代) ➤ ふるさと納税の返礼品の宣伝&品目の選択改良して税収を増やす。(50～60代) ➤ 松戸にあったデパートが閉店してしまった。デパートなどの商業施設を誘致する。(50～60代) ➤ 財源確保が必要。そのために、ふるさと納税で税収を増やす。(50～60代) ➤ 飲食店などの産業を支援してまちが活性化するとよい。(50～60代)

未来のまちの方向性	達成する手段
<p>ルマザーなどが生活していけるような仕事をつくる必要がある。(60代以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 退職前は、東京への通勤（1時間半）の辛さが身に沁みた。高齢化する中で皆が働けるようにするためには、職住近接の環境づくりが求められる。(60代以上) ➤ “伊勢丹通り”は衰退したように感じる。淋しい。そこに行けば楽しいことがある、魅力がある、ワクワクするような場所づくりが大切である。(60代以上) ➤ 企業誘致は大切だが、土地があるのか。また、将来を見据えたとき、企業を誘致すべきか住宅建設を促して人を呼び込むべきか、悩ましい。税収アップにつながる方を。(60代以上) ➤ 工場や大規模なお店ではなく、学校を誘致するという選択肢もある。若い学生が集まれば市街地も活性化するし、文教都市とのイメージづくりにもなる。柏市が良い例。(60代以上) ➤ AIの発達により市内の仕事が減少することが考えられるため、新たな企業を作る。(中学生) ➤ 市内の農業を盛り上げる。(中学生) ➤ 大きなショッピングモールがあつたり、駅近でショッピングできるところがある。(中学生) 	

(20) コミュニティ、交流、協働、市民参加、多文化共生

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 外国人との交流の場が充実するとよい。(10～20代) ➤ 立場を超えてお互いのことを知ることができるまち（まずは、知ることから始める。)(10～20代) ➤ 昔からいる人、新しく来た人が交流できる祭り、イベントがある。(10～20代) ➤ 様々な世代、立場の人々が暮らしやすいまち。(10～20代) ➤ 外国人もストレス少なく元気に暮らせるまち。(10～20代) ➤ 外国人と地元の交流活動が活発なまち←今は外国人が交流できる場所が少ない。(10～20代) ➤ 外国人でも気軽に相談ができるまち←相談したいときに相談できる友達が少ない。ストレスが溜まり犯罪に 	<p>【市民ができること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ イベントに参加したり、あいさつを心掛けるなど、地域の人と積極的に交流する。(10～20代) ➤ 地域の町内会に参加してみる。(10～20代) ➤ 近所の人にあいさつ（運動会など町会の集いに参加する)。(10～20代) ➤ 外国人と話す機会を増やす。(10～20代) ➤ 住んでいる地区の交流会に参加する。(10～20代) ➤ 近所の人にあいさつをするなど、意識的に交流を増やす。(10～20代) ➤ 近所のネパール料理を提供する店の料理教室に参加し、外国人と交流する。(10～20代) ➤ 外国語の翻訳機など、コミュニケーションツールを利

未来のまちの方向性	達成する手段
<p>つながるかもしれない。(10～20代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 町内会の人手不足により、存続するかも含めあり方が変化すると予想される。コミュニティの維持については、町内会単位ではなく松戸市全体で考える必要がある。(20～30代) ➤ 近所の人たちとの交流の機会が増えるとよい。(20～30代) ➤ 自治会加入者を増やす。そうすることで、コミュニケーションがとれ、災害時などで結束する。(40～50代) ➤ 市民センターは、安い値段で集まりに使える便利な場所だが、古いこともあり、市民が興味を持たず、使い方が知られていない。市民が活用できる身近な場所があることを多くの人が知り、市民活動が活発になっていけばよい。(40～50代) ➤ 町内会が、地域の情報をうまく活用できておらず、他の町会との連携もできていない。町会同士の規約が違うなどの課題があるので、課題を乗り越えて、地域間の連携が進むと、地域活動がもっと良くなるのではないか。(40～50代) ➤ 外国人、障害者、子供、LGBT、シングルマザー・シングルファーザーなど、あらゆる人が助け合うことができ、住みやすく、多様性のあるいろいろな人にとって優しいまちとなっていることが望ましい。(40～50代) ➤ 市の職員も多様な人がいることが望ましい。(40～50代) ➤ 近所の人同士が挨拶をしないのは寂しいので、人に関心を持てるまちになっているとよい。(40～50代) ➤ すぐやる課など、松戸市の対応は早い。市民も受け身ではなく、参加型のまちづくりが進んでいるとよい。(40～50代) ➤ 地域で市民が行っている活動に、行政が関わってくれと安心感がある。市民が行っている見回り活動は市が依頼して行っていることだと明らかにするなど、市の関わりが見えるようになっていくことが望ましい。(40～50代) ➤ 個人だけでは参加しにくい地域活動に関して、市が企画するなど場をつくることにより、市民の参加が促進 	<p>用してみる。(10～20代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ ボランティア活動への参加。(10～20代) ➤ コミュニティとのつながりを増やすために、高齢者や子どもと交流する。(20～30代) ➤ サークルに気軽に参加してみる。(20～30代) ➤ ボランティアにアクセスする。(20～30代) ➤ 今回の市民ワークショップを広める。(20～30代) ➤ まずは松戸市について1人ひとりが知ること。(20～30代) ➤ 自治会、町内会に参加し、近所やコミュニティの人と知り合う。(20～30代) ➤ 空き時間を活用し、できる範囲でボランティアをする。空いた時間でできることと、こういうことに困っている、といったもの同士のマッチングのような仕組みがあれば尚よい。(20～30代) ➤ ファミリーサポート提供側の人手が足りていないのであれば、この制度を高齢者にもっと知ってもらい、説明会を設け、ボランティアとして参加してもらう。(20～30代) ➤ コミュニティの活性化については、近所の人にあいさつすることから始める。(20～30代) ➤ 町内会の枠を越えて、祭りや運動会に参加する。(20～30代) ➤ 地域住民がつながるために、自分が地域のイベントに参加する。(40～50代) ➤ 自治会費を安くして、自治会に入りやすくする。(40～50代) ➤ 地域の中で、近隣の人とみんなで仲良くする。(40～50代) ➤ 町会の活動に、たとえくじ引きや持ち回りで参加することになったとしても、主体的に関わっていくこと。(40～50代) ➤ 近所の人と挨拶をする。(40～50代) ➤ 市からの情報を受け身で待つのではなく、主体的に情報収集をするようにする。(40～50代) ➤ 市が支援をしたり関与したりしている事業など、まずは自分が安心して参加できる活動に参加してみる。(40

未来のまちの方向性	達成する手段
<p>され、行政・地域・個人が連携した参加型のまちづくりが進んでいることが望ましい。(40～50代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 普段からの地域でのコミュニケーションが進み、イベントや行事に参加するだけでなく、作り始めるところから協力しあえるようになっているとよい。(40～50代) ➤ 人と人とのコミュニケーションが取りやすいまちになっているとよい。(40～50代) ➤ 町会の活動へのかかわりが増え、増える外国人との共生が進んでいるまちが望ましい。(40～50代) ➤ 松戸だけでなく他の市区町村とも協働できるまちになっていることが望ましい。(40～50代) ➤ 世代間の交流が活発になるようなイベントが増えるとよい。(50～60代) ➤ 外国人の住人が増えたり町内会が衰退したりして、そこに住む人の顔が見えにくくなっている。人と人との顔の見えるつながりのあるまちがよい。それが防犯につながる。(50～60代) ➤ 人と人との顔の見えるつながりのあるまちになるとよい。(50～60代) ➤ 自分に子どもがいれば子育てを通じて地域の人とつながりやすいが、子どもがいない女性でもつながりができる場があるとよい。(50～60代) ➤ 地域でのボランティア養成。(60代以上) ➤ 高齢化に対応した人材育成。(60代以上) ➤ 市民活動を支援する人づくり。(60代以上) ➤ エスニック料理教室などで異文化と仲良く。(60代以上) ➤ 学生や外国人が入ってくると地域が活性化する。(60代以上) ➤ 集まってしゃべる場があると楽しい。(60代以上) ➤ 人が集まれる広場がほしい。(60代以上) ➤ 地域の夏祭りに携わっている。地域での人と人とのつながりの大切さを感じている。未来もそうありたい。(60代以上) ➤ 地域活動は大切である。人と人とのつながりを育む。これからも大切だと思う。(60代以上) 	<p>～50代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 町会の活動へ関わっていくこと。(40～50代) ➤ 特技を活かして、地域のためにお手伝いする。(50～60代) ➤ 21世紀の森と広場の有効活用に向け、ボランティアとして管理・運営に参加する。(50～60代) ➤ 21世紀の森と広場の有効活用に向けたお金の遣い方につき、行政と一緒に考える。(50～60代) ➤ 私たちが学校のボランティアなどに登録して活動に参加する。(50～60代) ➤ コミュニティづくり。きっかけを市が呼び掛けてくれると、私たち市民も参加しやすい。(50～60代) ➤ ゴミ捨てなどの地域のルールを外国人へ情報発信する。(50～60代) ➤ 地域の祭りやイベントに積極的に参加して、まちを盛り上げる。(50～60代) ➤ 外国人の住人に日本語会話教室などを開いてサポートする。(50～60代) ➤ ボランティア活動をして、年配の人が経験や知識を若い人へ伝えていく。(50～60代) ➤ 子どもの保護者同士の付き合いがなくなってきたので、つながりをつくる。(50～60代) ➤ 趣味の集まりをつくる。(50～60代) ➤ (全般について) ボランティアとして参加する。そのために参加の仕方などをわかりやすくしてもらえると参加しやすい。(50～60代) ➤ 自分でできることを地域に還元。「地域の安全衛生指導者」「農業ボランティア」「手芸教室」「外国人支援」「他世代交流」「休日唐揚げおにぎりの会」などのボランティア。(60代以上) ➤ 2030年には、どこかでインストラクターをやっている。(60代以上) ➤ これまでの経験や趣味を活かして、人に教えたり手助けしたり。(プログラミング教室、カメラ・写真、服作り・リフォームなど)。(60代以上) ➤ 引き続き、町会役員としてまちづくりに参加する。(60代以上)

未来のまちの方向性	達成する手段
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 歳をとって、友人の大切さを痛感している。趣味を通じてでも何でもよいが、“友だちがいる暮らし”が理想である。(60代以上) ➤ これから益々、担い手不足が顕著になる。若い人に町会加入してもらえればベストだが、かんばしくない時はリタイア世代でよいので、担い手を確保していく必要がある。(60代以上) ➤ 町会に興味を持ってもらい、役員のみならず必要がある。役員にならなくとも、出来る範囲で協力してもらえようになればよい。(60代以上) ➤ お祭りは、地域コミュニティ活性化のために良いと感じている。これからも開催されるようにしたい。(60代以上) ➤ 駅前などでイベントは盛んだが、地域・町会のイベントが少ない。(60代以上) ➤ 人とつながることを大事にしていきたい。(60代以上) ➤ 外との交流、町会その他で働きかけていきたい。(60代以上) ➤ 総理大臣より町会長のほうが難しい。(60代以上) ➤ 町会に入らない人を訪ねたとき「名刺は？」と言われた。そういう時代の変化がある。(60代以上) ➤ 町会費の使い方を見直す。(60代以上) ➤ 防災訓練など、「行ってよかった」と思えるように変えていく。(60代以上) ➤ 行政からも支援を受けたい。コーディネーターを。(60代以上) ➤ 外国人を、これからの日本を支えてくれる人と位置づけて、教育などの支援が必要。(60代以上) ➤ あいさつのあるまちになっている。(中学生) ➤ 地域との関わりが大切にされている。(中学生) ➤ ボランティア活動を活発にする。(中学生) ➤ 地域全体の運動会をする。(中学生) ➤ 誰にでもフレンドリーに接することができるまちにする。(中学生) ➤ 交流会館を増やす。(中学生) ➤ 公園だけでなく、子どもが集まってコミュニケーションが取れる場所。(中学生) 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 外国人に向けて生活の仕方(ゴミ出しなど)を教える。(60代以上) ➤ 若い人やリタイア世代に町会加入を呼びかける。(60代以上) ➤ 町会に興味を持ってもらう。あるいは、自分が役員になる。出来る範囲で協力する。(60代以上) ➤ お祭りなどの地域イベントを企画し、実行する。(60代以上) ➤ 小学校の外国人児童をサポートしたい。(60代以上) ➤ 顔を合わせることから始めたい。(60代以上) ➤ 近所の人と話をするところから始めたい。(60代以上) ➤ 空き家を活用して、カフェなど人が集まる場を。(60代以上) ➤ 市民センターなどでボランティアを。(60代以上) ➤ 会釈やあいさつで近所の人との距離を縮めることから始める。(中学生) ➤ お年寄りなどと積極的にコミュニケーションをとる。(中学生) ➤ 電車や駅のホームなどで外国人が困っていたら声をかける。(中学生) ➤ 近所のお年寄りの方々と仲良くなる→世代を超えたコミュニケーション。(中学生) ➤ 外国語の案内が多い。(10~20代) ➤ 外国の文化を知るイベントがある。(10~20代) ➤ デイサービスを利用して外国人もお年寄りも交流ができる場の創造。(10~20代) ➤ 街路樹の周りに花を植えることで、コミュニケーションをとるきっかけとなる。(20~30代)

未来のまちの方向性	達成する手段
▶ コリア・チャイナタウンのように多国籍のまちにして、 様々な文化がある松戸市にする。(中学生)	

3. 参考資料

3-1. 募集案内

以下の募集案内（A3 見開き、4 ページ）および参加申込書を、無作為抽出した市民 3,000 名に郵送した。

2030年のまつどは、どのようなまちになっているのでしょうか？

普段お感じになっていることを踏まえながら理想のまつどの未来の姿について自由に意見を交換するワークショップを開催します。

ワークショップが初めての方やこれまで行政に関わりのなかった方でも参加しやすいよう専門家によるサポートもあります。
お気軽にご参加ください。

2030年
に向けた

市民ワークショップ 「未来のまつど」

託児あり

やさシティ、まつど。

matsudo

日付	場所
① 8/21 (水) 19:00~21:00	松戸市役所議会棟／
② 8/24 (土) 13:30~16:30	松戸市民会館／
③ 9/29 (日) 13:30~16:30	松戸フューチャーセンター
④ 10/9 (水) 19:00~21:00	(日程によって異なります。詳しくは裏面および同封の地図をご参照ください。)
⑤ 10/12 (土) 13:30~16:30	

(上記日程のうち、ご都合のよい日時に1回ご参加ください。)

申込方法
参加申込書に必要事項を記入の上、返信用封筒によりご郵送ください。

申込締切：令和元年7月29日（月）

詳しくは
中面へ→

2030年に向けた

市民ワークショップ「未来のまつど」 募集案内



1. ワークショップ開催の目的

- 現在、松戸市では新しい総合計画の策定を進めているところです。総合計画とは、まちの将来像とそれに向けた取組を定める重要な計画です。この計画に関して、市民の皆さまにご意見をいただくためのワークショップを開催することといたしました。
- 市民の皆さまから広くご意見をいただくため、住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上の市民の皆さまに、このご案内をお送りしています。



2. 対象

18歳以上の市民の方延べ150名（各回30名×5回）。

なお、応募者多数の場合は抽選にて参加者を決定し、当選者の方には8月上旬までに参加通知をお送りします。



3. 日程・場所

以下の日程の中から、ご都合のよい日時に1回ご参加いただきます。

日程により、開催場所・時間・ディスカッションテーマが異なりますので、ご注意ください。

	日時	場所	議論テーマ (以下4.を参照)
第1回	8月21日(水) 19:00~21:00(2時間)	松戸市役所 議会棟 特別委員会室	1
第2回	8月24日(土) 13:30~16:30(3時間)	松戸市民会館 301会議室	1および2
第3回	9月29日(日) 13:30~16:30(3時間)	松戸フューチャーセンター (松戸市文化ホール内)	1および2
第4回	10月9日(水) 19:00~21:00(2時間)	松戸市役所 議会棟 特別委員会室	2
第5回	10月12日(土) 13:30~16:30(3時間)	松戸市役所 議会棟 特別委員会室	1および2

4. 議論テーマ



松戸市のまちづくりに関して、それぞれのテーマで2030年のまつどがどのようなまちになってほしいか話し合います。

【テーマ1】：2030年の市民の『くらし』を考える

話し合う事柄(例)：

健康、医療、福祉、子育て支援、学校教育、生涯学習、文化活動

【テーマ2】：2030年の松戸の『まち』を考える

話し合う事柄(例)：

防災、防犯、交通安全、消防救急、環境保全、産業、雇用、都市空間、道路、公共交通

5. 話し合いの方法



原則として年代ごとにグループを分け（6人×5グループ）、リラックスした雰囲気の中で自由に意見を交換していただきます。

【話し合いのイメージ】



付箋に意見を書き出す



意見を交換・議論する



意見を分類しながらまとめる

6. 託児について



子育て世代の方でも参加しやすいように、託児スペースをご用意いたします。託児を希望される方は、参加申込書に必要事項をご記入ください。なお、生後6ヶ月から小学2年生までの乳幼児及び児童を対象とさせていただきます。

7. 謝礼



参加者には謝礼として、5,000円分のクオカードをお渡しします。

8. その他

ワークショップにおける議論や資料はすべて日本語を使用します。外国語への通訳は対応できませんので、ご了承ください。

9. お問い合わせ先



ご不明な点等ございましたら、下記までお気軽にご連絡ください。

松戸市役所 総合政策部 政策推進課

〒271-8588 松戸市根本 387-5

電話 047-366-7072

F A X 047-366-1204

Eメール mcseisaku@city.matsudo.chiba.jp

会場地図



A 松戸市役所
議会棟 特別委員会室
第1回 8/21 (水)
19:00~21:00
第4回 10/9 (水)
19:00~21:00
第5回 10/12 (土)
13:30~16:30

B 松戸フューチャーセンター
(松戸文化ホール内)
第3回 9/29 (日)
13:30~16:30

C 松戸市民会館
301会議室
第2回 8/24 (土)
13:30~16:30

開催場所

A 松戸市役所 議会棟 特別委員会室

所在地
松戸市根本387番地の5



QRコード

- JR常磐線・新京成電鉄松戸駅の東口から徒歩5分
- 新京成バス 松12、松13「市役所入口」から徒歩1分

※各会場に駐車場のご用意はございません。
公共交通機関をご利用ください。

B 松戸フューチャーセンター (松戸市文化ホール内)

所在地
松戸市松戸1307番地の1
松戸ビルヂング4階



QRコード

JR常磐線・新京成電鉄松戸駅の東口から徒歩約3分

※携帯電話やスマートフォンでQRコードを読み取ると地図が表示されます。

C 松戸市民会館 301会議室

所在地
松戸市松戸1389番地の1



QRコード

JR常磐線・新京成電鉄松戸駅の東口から徒歩約7分

※印の項目は、必ずご記入ください。

令和元年 月 日

市民ワークショップ「未来のまつど」 参加申込書

松戸市長殿

私は、以下のとおり市民ワークショップへの参加を申し込みます。なお、本申込書に記載された内容について、今回のワークショップ実施に関することに限って利用することに同意します。

ふりがな お名前※		性別	

〒 ー
ご住所※ 松戸市

電話番号※ 携帯電話など連絡が付きやすいものをご記入ください。

メールアドレス

年代※ 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70歳以上
(○で囲んでください)

参加希望の順に**数字**をご記入ください。(第3希望まで) _____ ↓

	日時	場所	議論テーマ	希望
第1回	8月21日(水) 19:00~21:00(2時間)	松戸市役所 議会棟 特別委員会室	1	
第2回	8月24日(土) 13:30~16:30(3時間)	松戸市民会館 301会議室	1および2	
第3回	9月29日(日) 13:30~16:30(3時間)	松戸フューチャーセンター (松戸市文化ホール内)	1および2	
第4回	10月9日(水) 19:00~21:00(2時間)	松戸市役所 議会棟 特別委員会室	2	
第5回	10月12日(土) 13:30~16:30(3時間)	松戸市役所 議会棟 特別委員会室	1および2	

議論テーマについては、募集案内2ページの「4. 議論テーマ」をご参照ください。

託児希望

参加に際し、託児を必要とされる方は、チェックの上必要事項をご記入ください。

託児：お子さんの年齢・性別
(歳、男・女) (歳、男・女) (歳、男・女) (歳、男・女)
(生後6ヶ月から小学2年生までの乳幼児及び児童を対象とさせていただきます。)

その他
連絡事項

特別な補助等が必要だったり、参加について気になることがある場合はご記入ください。
(例：手話通訳が必要、車イスの補助が必要など)

ワークショップの申込期限は令和元年7月29日(月)消印有効となっております。
応募者多数の場合は抽選にて参加者を決定し、当選者の方には8月上旬までに参加通知をお送りします。

3-2. 当日に使用した資料

以下の資料を参加者に事前に郵送し、当日の資料として使用した
(例として第1回ワークショップ分を記載)。



2030年
に向けた

市民ワークショップ 「未来のまつど」

<ワークショップ資料>

日時：令和元年8月21日(水) 19:00~21:00
場所：松戸市役所 議会棟 特別委員会室
(行き方・地図は最終ページをご覧ください)

ワークショップ当日は、本資料をご持参下さい

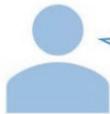


1. 市民ワークショップとは？

このたびは、ご多忙のところ、市民ワークショップ「未来のまつど」にご参加いただき、誠にありがとうございます。市民ワークショップは、**市民の皆さまが主役となって、参加者全員で意見を出し合う共同作業の場**です。ワークショップグループには、話し合いのサポートをする専属のファシリテーターが付きます。どうぞ気軽な気持ちで皆さまの自由なご意見をお聞かせください。

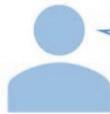
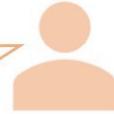
ワークショップ開催の目的

- 現在、松戸市では新しい総合計画の策定を進めているところです。その一環として、市民の皆さまからご意見をいただくため、本ワークショップを開催いたします。



総合計画って何ですか？

総合計画は、皆さんが住むまちの未来に向けた取り組みを決める大切な計画です。地方自治体のすべての計画の基本となり、長期的な展望に向けた行政運営の指針が盛り込まれています。同時に市民の皆さんと共有し、ともにまちをつくり上げていくための指針でもあります。



実は松戸市についてよく知らないのですが…

以下の Web サイトで、松戸市の魅力が紹介されています。ぜひご覧ください。

松戸市公式 YouTube まっちゃんねる

松戸市 YouTube 検索



QR コード

まつどライブプロモーション

まつどライブプロモーション 検索



QR コード

※QR コードをスマートフォンまたはタブレットで読み取ってください。



2. プログラム

(1) 当日のプログラム・内容

- まず全員でオリエンテーションを行い、次に、グループごとに分かれて話し合います。最後に、話し合った結果を発表し、意見交換を行います。

時間（目安）	内 容
18:30～	■ 受付時間 18:30～19:00 ※受付時間内にお越しください。プログラム進行の都合上、大幅に時間を超過した際はご入場いただけない場合がございます。
19:00～ 19:15	① 開会・オリエンテーション【15分】 ✓ ワークショップの目的、趣旨、進め方などを説明します。
19:15～ 20:15	② グループディスカッション【60分】 ✓ グループに分かれ、簡単に自己紹介をします。 ✓ 次に、2030年（10年後）の「私」と「松戸市」を思い浮かべながら、「2030年の市民の暮らし」について付箋紙に意見を書き出し、模造紙に貼り出します。 ✓ グループ内で自由に意見を交換します。
20:15～ 20:30	③ ハーベストタイム【15分】 ✓ ワークショップの収穫として、松戸の未来に向けて「みんなで力を合わせてできること」や「私が明日からできること」についてグループ内で話し合います。
20:30～ 20:50	④ 各グループの発表【20分】 ✓ 各グループのファシリテーターが、話し合った事柄を1グループ3分で発表します。 ✓ その後、全体で意見交換をします。
20:50～ 21:00	⑤ まとめ・閉会【10分】 ✓ 閉会后、謝礼をお渡しします。

※ハーベストタイムとは？

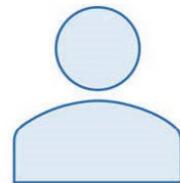
皆さんで「本日の収穫」についてお話していただく時間です。グループディスカッションで描いた未来に向けて、ご自身で具体的な行動に移してみたいこと、周りの方々と力を合わせて取り組みたいことを、グループ内で共有します。

(2) グループディスカッションの議論テーマ

- グループディスカッションでは、2030年の松戸でどのような暮らしをしたいかについて、話し合います。具体的には…

『くらし』

健康（例えば…「健康に関する知識の普及」など）
医療（例えば…「在宅医療体制の充実」など）
福祉（例えば…「介護する家族への支援の充実」など）
子育て支援（例えば…「子どもの貧困や虐待への対策」など）
学校教育（例えば…「いじめ防止や不登校への対策」など）
生涯学習（例えば…「図書館機能の充実・強化」など）
文化活動（例えば…「文化施設の老朽化対策」など）



(3) グループ分け

- この市民ワークショップには、多数の市民の皆さまにご参加いただきますが、全員で話し合いを進めると、ご発言いただけない方が出ることも予想されます。
- そこで、できるだけ多くの方に積極にご発言いただき、ワークショップを効果的に運営するためにも、まず、5つのグループを編成し、話し合ってください。
- グループ分けにつきましては、年代別に分け、1グループ6名程度を目安にあらかじめ編成させていただきます。ご理解をいただきますようお願いします。
- グループ分けは、ワークショップ当日にお知らせします。

3. グループディスカッションの進め方

皆さまの話し合いが活発に行われるよう、グループディスカッションは、次のように進めていきます。ご理解の上、ご協力いただきますようお願いいたします。

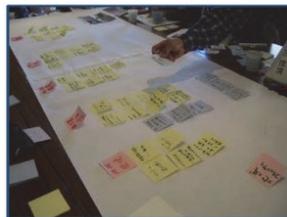
(1) グループディスカッションの手法

- 話し合いの進め方には、色々な手法がありますが、今回は、『意見をカードに書き出しながらかつまとめるワークショップ』を中心として進めていきます。
- これは、意見をカードに書き出し、似たような意見のカードを整理・分類しながら話し合い、まとめていく方法です。市民ワークショップでよく採用されており、話し合った結果をわかりやすく整理し、まとめていく手法として適しています。

(意見の書き出しと整理の手順)



意見をカードに書きだす



意見発表しながら、カードを貼る



貼り出したカードを見ながら、みんなで話し合う



カードをグループ化し、見出しをつける



ペンを使って説明などを書き込む

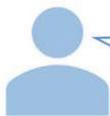
※一番思い入れが強い意見から説明してください

- 各グループに1名ずつファシリテーター（進行役）が付き、皆さまの話し合いをサポートします。
- ここで示した手順は、進め方の一例です。できるだけ多くの皆さまが意見を出せるよう、場合によっては順番の変更や他の手法を用いるなど柔軟に対応していきます。

(2) 市民ワークショップを進めるにあたって

■話し合いのルール

心がけましょう	気をつけましょう
<ul style="list-style-type: none">・みんな一緒に、気楽に、楽しく、でも真面目に・お互い対等な立場で議論しよう・まずは、人の話にじっくり耳を傾けてみよう・思い込みは捨てよう・対立を恐れずに勇気を持って自分の意見を出そう・建設的な意見を出そう・コンパクトに話そう	<ul style="list-style-type: none">・開示された個人的な内容は他言しない・すぐ結論付けしない、決めつけない・話しすぎない・頭ごなしの非難や攻撃、否定はしない・自分の主張を押し付けない、無理強いはしない



市の取組をよく知らないし、このようなワークショップは初めてです…
わからないことがあった場合、どうすればよいですか？

ファシリテーター（進行役）が議論の進行をサポートしますので、ご安心ください。

この市民ワークショップは、未来のまつど（将来の松戸市）について、市民の皆さまから幅広いご意見をいただくためのものです。

「どんな意見を出してよいかわからない」などお考えになるかもしれませんが、日頃の生活の中でお考えになっていること・感じていることで構いませんので、積極的にご意見をおっしゃってみてください。



■託児ご利用の方

- 参加申込書で託児利用を希望された方は、当日受付でその旨をお伝えください。
- お子様に必要なものはご持参ください。
玩具やお昼寝時のタオルは用意しますが、お子様に必要な物はすべて持ち込みとなりますので、お名前をご記入の上ご用意ください。(おむつ・おしり拭き・使用済みのおむつを入れるビニール袋・着替え・飲み物・おやつ・抱っこ紐など)
- 当日お子様の離乳食やミルクのお世話をさせていただく場合は、時間や量などを受付時にスタッフまでお知らせください。(ミルクの場合はお湯もご持参ください。)
- アレルギーなどお預かりする際に気をつけることがあればお知らせください。
特に食物アレルギーをお持ちのお子様は必ずスタッフにお伝えください。ご持参の物以外は差し上げませんが、間違っても他のお子様の物を手に取ってしまう可能性がありますので、ご協力をお願いします。
- 託児利用に際しての注意事項をご確認ください。
37.5℃以上の発熱、感染性の病気など体調不良のお子様のお預かりは、集団託児のため受け入れをお断りします。(医療処置が必要なお子様も同様)
- 万一お預かりしているお子様の体調が悪化した場合、利用途中であっても速やかにお迎えに来ていただきます。
- お預かりには十分配慮いたしますが、万一事故が発生した場合、保育スタッフの故意または重大な過失に起因しない限り、事故に対しての責任は負いかねます。

■ご参加いただく皆さまへ

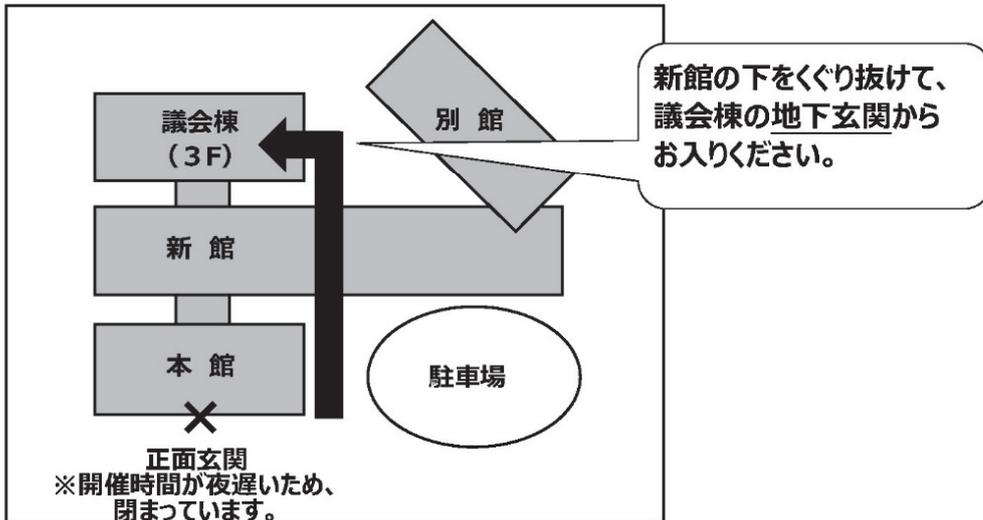
この資料の内容や、市民ワークショップに関してご不明な点、事前に相談したいことなどございましたら、下記までお気軽にご連絡ください。

松戸市役所 総合政策部 政策推進課
〒271-8588 松戸市根本 387-5
電話 047-366-7072
携帯電話 070-2269-2624 (※当日のみこちらにおかけください)
F A X 047-366-1204
Eメール mcseisaku@city.matsudo.chiba.jp

会場のご案内



●市役所 議会棟の入り方

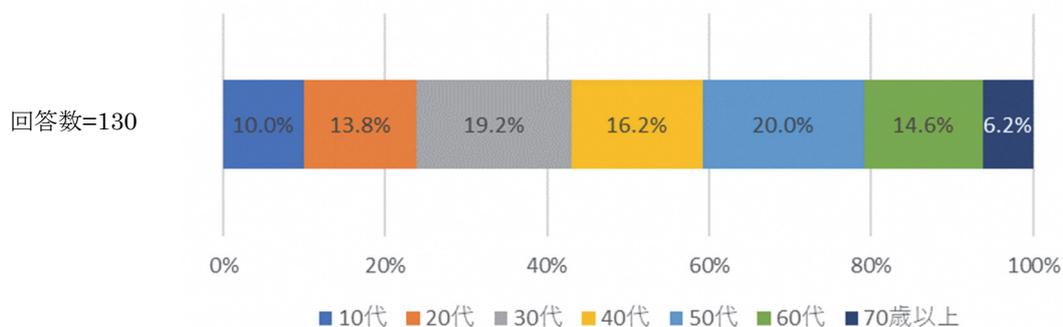


3-3. アンケート結果

各回のワークショップの最後に、参加者にアンケートを記入していただいた。集計結果を以下に示す。

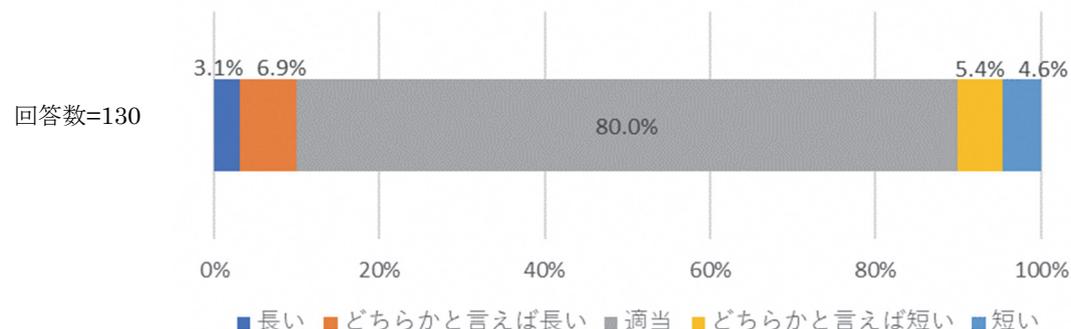
1. 年代 (あてはまるもの1つに○をしてください)

10代 20代 30代 40代 50代 60代 70歳以上

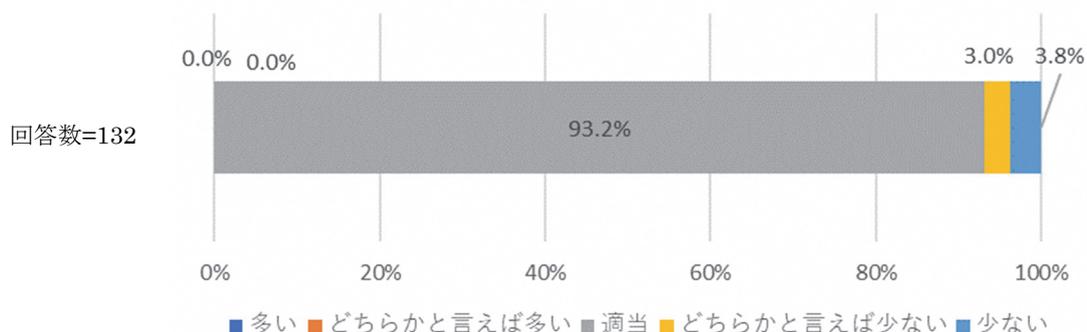


2. ワークショップの運営について (あてはまるもの1つに○をしてください)

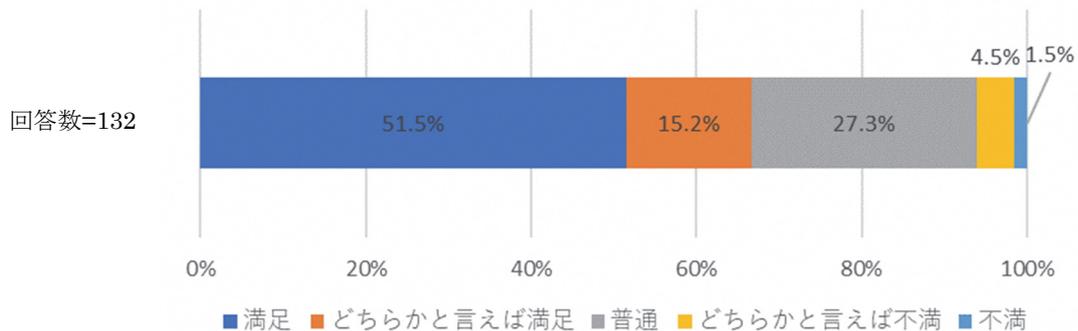
①開催時間 (2時間)	長い	どちらかと言えば長い	適当	どちらかと言えば短い	短い
-------------	----	------------	----	------------	----



②1グループの人数	多い	どちらかと言えば多い	適当	どちらかと言えば少ない	少ない
-----------	----	------------	----	-------------	-----



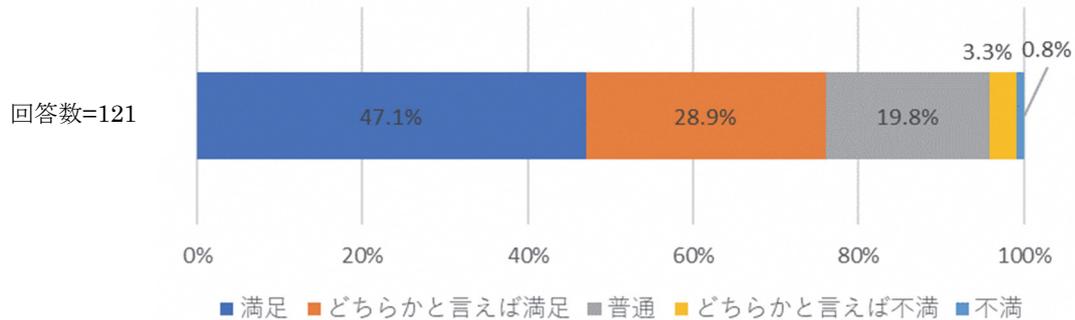
③グループワークの進め方	満足	どちらかと言えば満足	普通	どちらかと言えば不満	不満
--------------	----	------------	----	------------	----



【上記の理由（自由記述）抜粋】

- 10年という長くも短い未来について地域を考える良い機会となり、とても満足しました。（満足／20代）
- 松戸について全員が自由な意見を出せた。（満足／10代）
- ファシリテーターの方が円滑に進めてくださり、積極的に意見交換できた。（満足／10代）
- 市という共通言語で話ができるのは面白かったです。（満足／30代）
- みんなが意見を出せる雰囲気非常不错によかったです。（満足／40代）
- 単に市に対する文句ばかりが出ない前向きな進め方だったと思う。（満足／40代）
- 年代が同じだったので話もしやすかった。（普通／50代）
- もう少し意見が広がるような感じだったらよかった。意見の誘導がなかったのはよかった。（普通／30代）
- 「私たちになにができるのか？」を基準に初めから話し合いをするべきだった。（どちらかと言えば不満／40代）
- 自分たちで発表したかった。（どちらかと言えば不満／50代）
- カテゴリー分けをもう少ししっかり、絞ってもよい。（不満／40代）

④全体の満足度	満足	どちらかと言えば満足	普通	どちらかと言えば不満	不満
---------	----	------------	----	------------	----



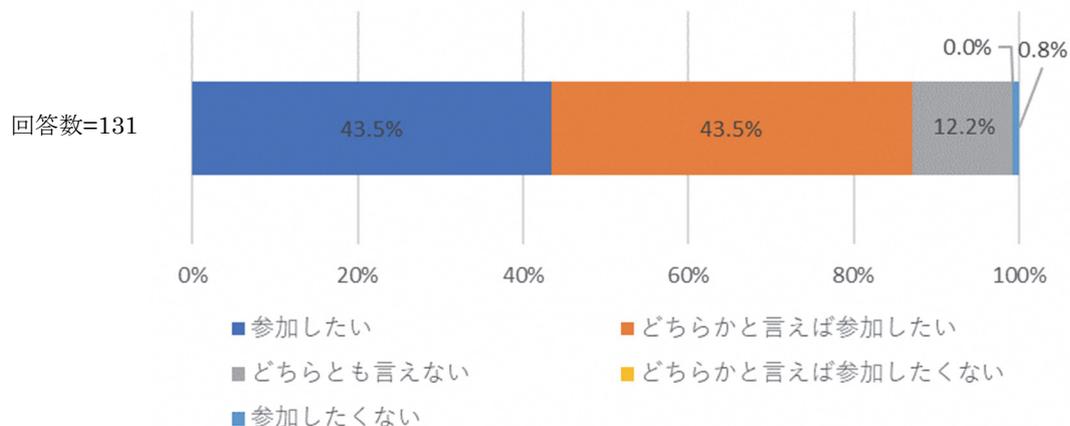
【上記の理由（自由記述）抜粋】

- この様な機会に参加できて、あらためて「松戸」を考えることができて良かった。（満足／30代）
- 近い世代で共通認識を得やすく、他世代の方々のグループとの相違点も明確にしやすかった。（満足／30代）
- 市政に参加している気持ちになる。（満足／70歳以上）
- 普段あまり松戸の方と松戸のあり方について話せないののでいい機会となった。（満足／40代）
- いろいろな意見が聞けて有意義だった。（どちらかと言えば満足／30代）
- 「交流」を皆さんが課題として考えていることがわかってよかった。（どちらかと言えば満足／40代）
- 松戸に引越してきて日が浅いので、市のことを色々と知れてよかった。（どちらかと言えば満足／30代）
- 身近な話が多く、もう少し建設的な話が欲しかった。（どちらかと言えば満足／60代）
- 最後に全グループのポスターを拝見出来たらよかった。（どちらかと言えば満足／20代）
- 1回限りの参加ではもの足りない。何回か話し合うことで気付きが生まれると思う。（どちらかと言えば不満／50代）
- 市側が受身。今後意見がどう生かされるか不明で見えない。（どちらかと言えば不満／50代）
- まとめたい方向が先に決まっている印象が強い。（どちらかと言えば不満／60代）
- 現状に対する不満が強すぎる意見が多い。良いところをどう育てるかという観点が弱い。（どちらかと言えば不満／60代）
- せっかくの話し合いの輪の中にこそ、松戸市役所の方にいてもらい、直接意見をきいてほしかった。（不満／50代）

3. 今後のまちづくりについて（あてはまるもの1つに○をしてください）

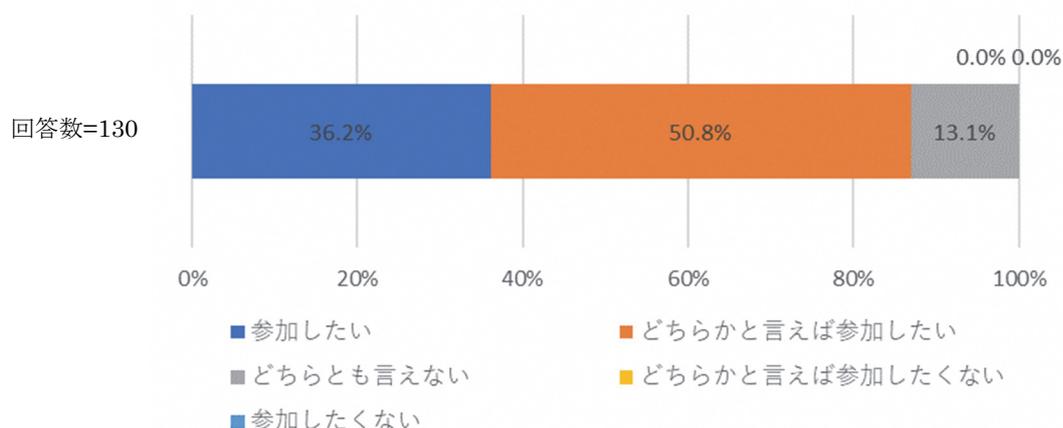
①今後、今回の市民ワークショップのような市民参加の場があった場合、参加したいと思いますか。

参加したい	どちらかと言えば参加したい	どちらとも言えない	どちらかと言えば参加したくない	参加したくない
-------	---------------	-----------	-----------------	---------



②今後、まちづくりに関する活動に参加したいと思いますか。

参加したい	どちらかと言えば参加したい	どちらとも言えない	どちらかと言えば参加したくない	参加したくない
-------	---------------	-----------	-----------------	---------



【上記の理由・参加したい活動等（自由記述）抜粋】

- 松戸市民として松戸のイメージ向上に役立ちたい。（参加したい／20代）
- 国際交流イベントに参加したい。（参加したい／30代）
- 今回の話し合いを通してもっと松戸のまちづくりについて積極的に参加したいと思ったから。（参加したい／10代）
- しっかりと市の方針が決まったの活動であれば喜んで参加します。（参加したい／50代）
- 市民の声を直接届けることができるため。（参加したい／50代）
- 様々な世代の人達と交流を深めたいから。（参加したい／10代）
- 元気である事を条件に生涯、地域貢献をしていきたい。その材料にするため。（どちらかと言えば参加したい／50代）

- 仕事の経験を生かしたい。(どちらかと言えば参加したい／70歳以上)
- 市民交流会に参加したい。(どちらかと言えば参加したい／20代)
- 時間に都合がつけば参加していきたいと思います。(どちらかと言えば参加したい／40代)
- 自分の住んでいる狭い地域だけでなく松戸全体の明るい未来をみすえてみたい。(どちらかと言えば参加したい／50代)
- テーマがきちんとしていたら参加したい。(どちらとも言えない／50代)
- 子育て中なので長時間だとちょっと難しいので。(どちらとも言えない／30代)
- 参加して面白かったが、有益な意見を出せたか自信がない。(どちらとも言えない／60代)

4. 市民ワークショップに参加してのご感想などを、自由にご記入ください。

【自由意見抜粋】

- 松戸市の町や暮らしについてどう改善していくべきか、自分が明日からできることについてなど普段あまり考えていなかったことについて学ぶことができてよかった。年齢層による考え方の違いが面白かった。(10代)
- 若い人から年配の方々のいろいろな意見が聞けておもしろかった。改めて松戸市について考える機会になっていい経験になって良かった。(10代)
- 楽しみながら、松戸の未来を考える機会に参加でき良かった。まちづくりにこのワークショップの意見が何らかの形で反映されたらうれしい。(20代)
- 市民としての自覚をさらに強めることができてよかった。様々な年代の意見をとりいれているのはとても良いことだと思うので、今後も続けてほしい。(20代)
- 自分でこれからできることについて考えさせられました。(20代)
- 大変有意義な時間でした。世代の異なる方との意見の交換もできるとよりよいと感じました。市民として自ら住む市のことを考えるキッカケになりました。(20代)
- 各年代で話題が全く異なると思ったが、外国人・イベントへの参加・災害対策等共通の話題が多く、色々な意見が聞けて楽しかった。(20代)
- みなさんがより良い松戸を目指し考えているということ、住みやすい町にしたいと考えている人がたくさんいらして、きっと多くの人が松戸が好きでこれからも住み続けたいという気持ちなのだなと感じました！(20代)
- 色々な人と話すことができ、勉強になりました。発表時間3分を守って、大事な要点だけ話して、間のびしないようにした方がよいと思いました。(20代)
- 今回出た意見について、参加できなかった市民の方の具体的な追加案を広く募集して実現を目指してほしい。(30代)
- 少しでも役に立ったらうれしい。これで終わりにせずにコミュニティの場を作ってもらえるとうれしい。(30代)
- 地域のことを知ることができた。市内の他区はどうなっているのかなど、活発に意見交換ができた。(30代)
- 松戸市に住んで10年近くなりますが、知らないことが多いと感じる時間となりました。改めて松戸市を知ることのできた時間となりました。(30代)

- 自分の視点だけでは思いつかない、友人ともあまり話さないことを意見交換できて楽しかったです。参加させていただき、ありがとうございました。(40代)
- テープレコーダーなどを置いて活発な意見を市の人にあとで聞いてもらってもよいかなと思いました。(40代)
- 違う世代の方(様々な)とも意見交換したかったです。(40代)
- 普段感じていることを他の方も感じていることがわかり、自分のわがままではなかったことに自信を持ってました。色々な角度から「まち」を見つめることができよかったです。(40代)
- 進行役が市側の方でなかったのが理解できない。本当にワークショップを大切に思っているのか不安。(50代)
- 初めて参加したが、考えていたよりいろいろな意見が出たことに驚いた。少し長い時間でも大丈夫だと思います。テーマを絞って話し合いをしてもよいと感じました。(50代)
- 回数を重ねることが必要。(50代)
- 結果のフィードバックはあるのでしょうか。きちんとお願いします。(50代)
- 進行役の方がお上手でスムーズに話し合い、意見交流ができて、よかったです。これからもすてきな松戸の町づくりがんばってほしいと思います。(50代)
- 松戸という町を外から改めて見るようで勉強になりました。認識させて頂いたようです。(60代)
- 改めて、住んでいる街について考えることが出来ました。ひとりひとりの気持ちによっても変わっていくものだと感じました。(60代)
- 参加された市民の思いが叶えればと思います。(60代)